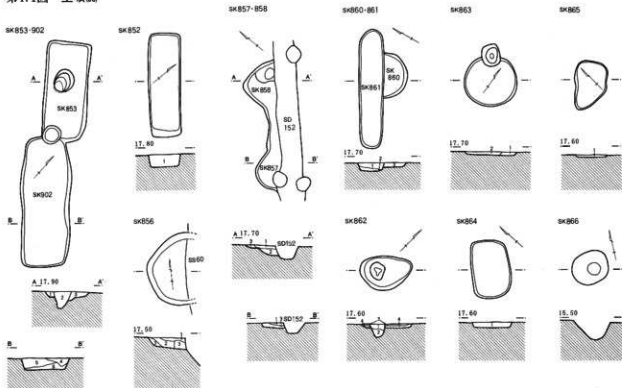
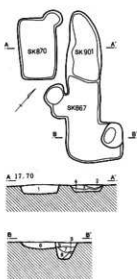


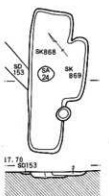
第471図 土壇(33)



SK867・870・901



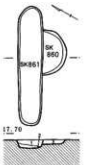
SK868・869



SK 8 5 2
1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量、黒褐色ブロック少量含む。

SK 8 5 3・9 0 2
1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子、灰褐色粒子、ロームブロック多量含む。
3 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
4 明褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
5 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
6 暗褐色土 ローム粒子多量、灰褐色ブロック少量含む。

SK860-861



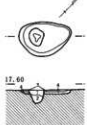
SK863



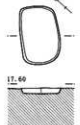
SK865



SK862



SK864



SK866



SK 8 5 6

1 黒褐色土 ローム粒子少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
3 黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
SK 8 5 7・8 5 8
1 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
2 明褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量、灰褐色ブロック少量含む。

SK 8 6 0・8 6 1

1 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。

SK 8 6 2

1 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
3 明褐色土 ロームブロック少量含む。
4 黄褐色土 ローム塊。

SK 8 6 3

1 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。

SK 8 6 4

1 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。

SK 8 6 5

1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

SK 8 6 7・8 7 0・9 0 1

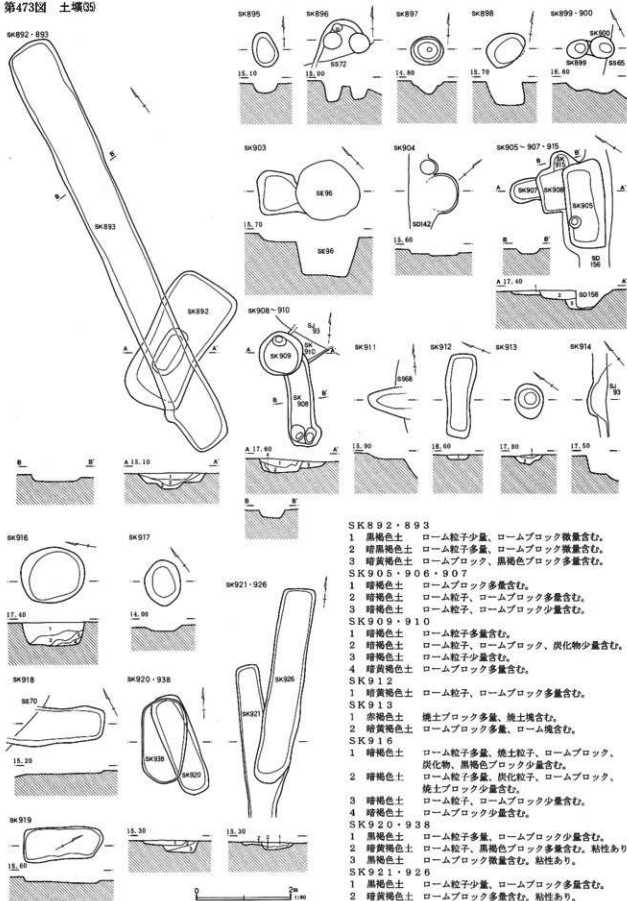
1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
2 暗褐色土 白色粒子多量、ロームブロック少量含む。
3 暗褐色土 白色粒子、ロームブロック少量含む。
4 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
5 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
6 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、灰褐色ブロック多量含む。

SK 8 6 8

7 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
8 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
9 暗褐色土 ローム塊。

SK 8 6 8・8 6 9

1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量、灰褐色ブロック少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。



SK892・893

- 1 黒褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック微量含む。
- 2 暗黒褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック微量含む。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック、黒褐色ブロック多量含む。

SK905・906・907

- 1 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。

SK909・910

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、炭化物少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロック多量含む。

SK912

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。

SK913

- 1 赤褐色土 焼土ブロック多量、焼土塊含む。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量、ローム塊含む。

SK916

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子、ロームブロック、炭化物、黒褐色ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化物粒子、ロームブロック、焼土ブロック少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

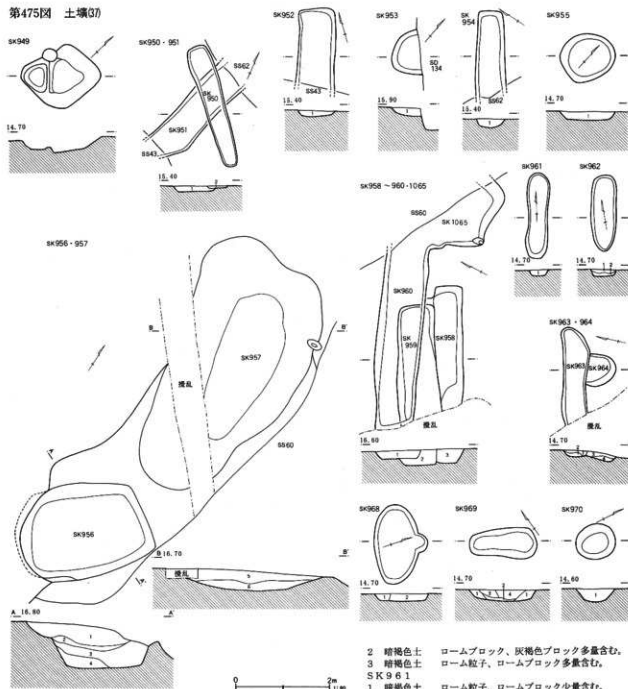
SK920・938

- 1 黒褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子、黒褐色ブロック多量含む。粘性あり
- 3 黒褐色土 ロームブロック微量含む。粘性あり。

SK921・926

- 1 黒褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量含む。粘性あり。

第475図 土壌(3)



SK950・951・952・954

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子多量含む。

SK953

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。

SK955

- 1 明褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック少量含む、粘性あり。

SK956・957

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、黒褐色ブロック少量含む。
2 暗黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
4 暗黄褐色土 ロームブロック多量含む。
5 暗褐色土 ロームブロック、黒褐色ブロック少量含む。
6 暗黄褐色土 ロームブロック、黒褐色ブロック多量含む。

SK958~960

- 1 暗褐色土 ローム粒子、灰褐色ブロック多量含む。

- 2 暗褐色土 ロームブロック、灰褐色ブロック多量含む。
3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。

SK961

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。

SK962

- 1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。

SK963・964

- 1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
3 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
4 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

SK968

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

SK969

- 2 明褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。

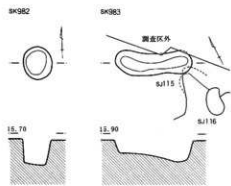
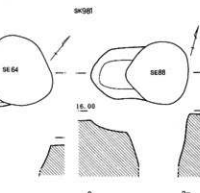
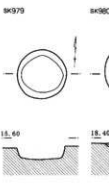
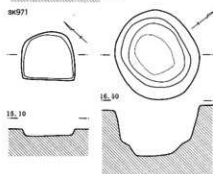
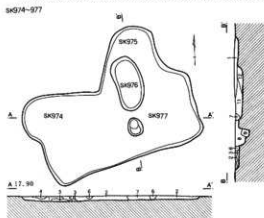
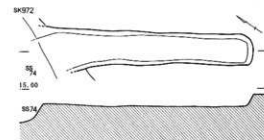
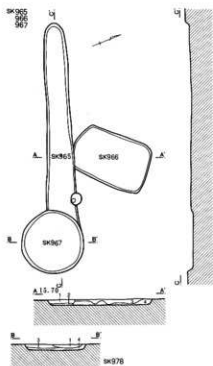
SK969

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
2 明褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子多量含む。
4 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子少量含む。

SK970

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

第476図 土壇38



SK965・966・967

- 1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、黒褐色ブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

SK973

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子微量含む。

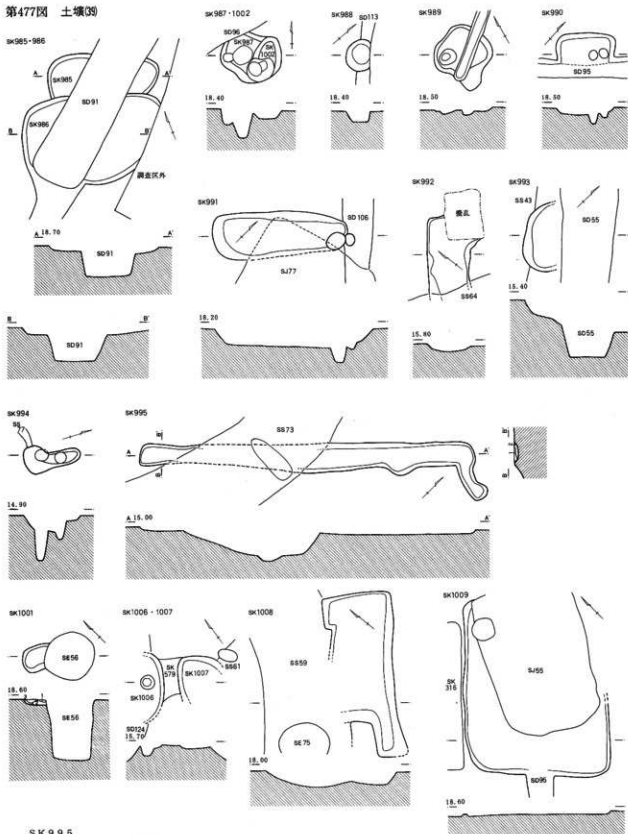
SK974・975・976・977

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、灰色粒子微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子多量少量含む。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量含む。
- 4 暗灰褐色土 ローム粒子微量含む。
- 5 暗灰褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子多量含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量含む。
- 10 暗黄褐色土 ロームブロック少量含む。
- 11 暗褐色土 焼土粒子多量、焼土ブロック、ロームブロック少量含む。
- 12 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。

SK980

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。

第477図 土壇(39)



SK 995

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土

SK 1001

- 1 灰褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土

ローム粒子多量含む。

ローム粒子、ロームブロック多量含む。

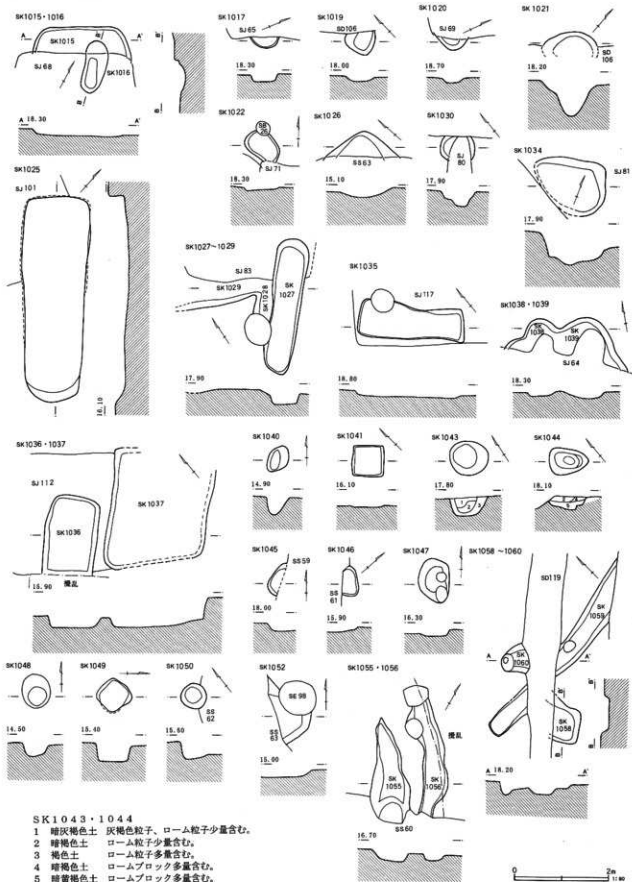
ローム粒子少量含む。

ローム粒子、ロームブロック多量含む。

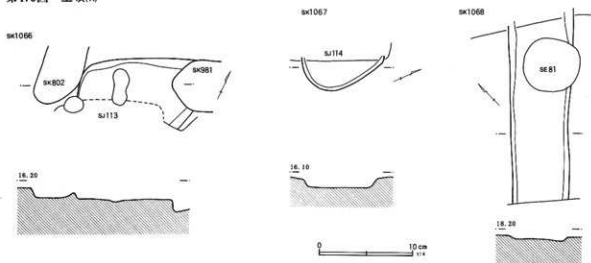
ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。



第478図 土塚(4)



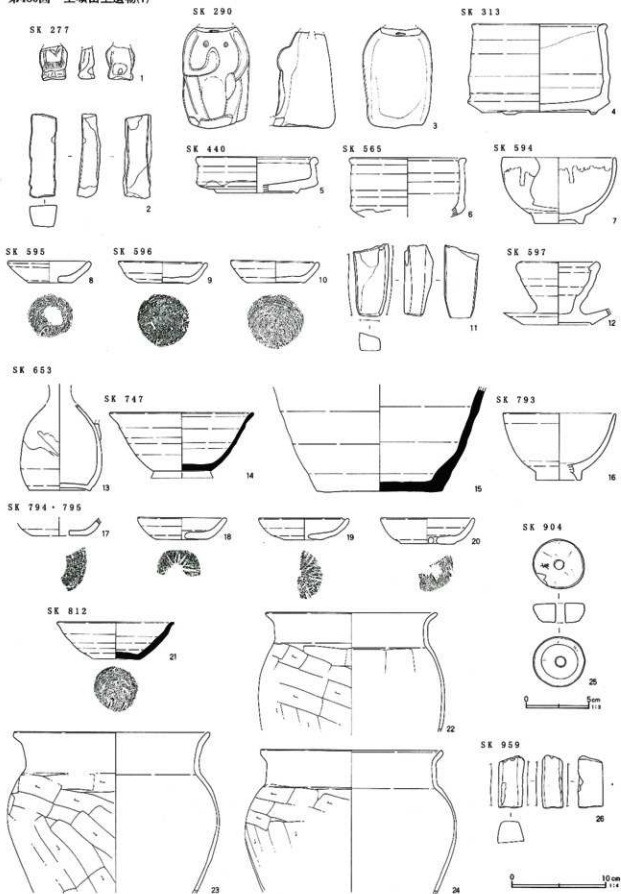
第479図 土壇(40)



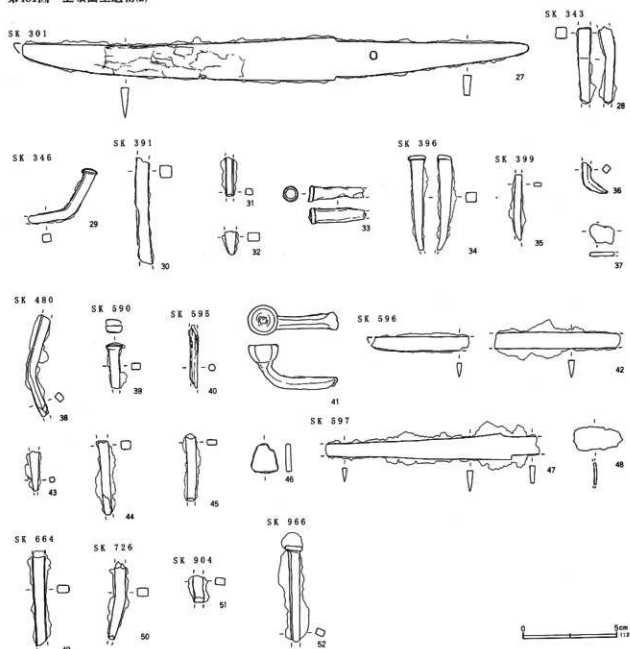
土壇出土遺物観察表 (第480・481図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	人形	幅1.6×高さ3.6×底径2.2cm							SK277
2	砥石	長さ8.7×幅2.9×厚さ2.3cm、重量75.8g							SK277
3	人形	幅6.0×高さ10.1×底径5.9cm							猿? SK290
4	香炉	(14.4)	9.5	(11.8)	BK	A	灰白色	35	瀬戸美濃 SK313
5	香炉	(13.0)	3.8	(8.8)	K	A	淡黒褐色	25	瀬戸美濃 SK440
6	香炉	12.4				A	灰白色	20	瀬戸美濃 SK565
7	碗	12.2	7.0	5.2	K	A	淡黒褐色	40	瀬戸美濃 SK594
8	かわらけ	8.8	2.3	4.6	BE	A	淡赤褐色	95	SK595
9	かわらけ	9.5	2.2	5.6	BK	A	黒褐色	100	口縁部に油煙の痕跡(付着)あり SK596
10	かわらけ	9.4	2.2	6.1	BEGK	A	淡黒赤褐色	95	SK596
11	砥石	長さ(7.7)×幅2.2×厚さ1.8cm、重量119.5g							SK596
12	仏器	8.8			B	A	淡黒褐色	40	瀬戸美濃 SK597
13	手付瓶			6.5	K	B	淡灰褐色	90	灰釉 SK653
14	高台付碗	15.2	6.2	(6.5)	BKL	B	灰色	40	末野産
15	長頸瓶			13.6	BKL	C	淡茶褐色	70	SK747
16	碗	(12.0)	7.1	(4.8)	A	A	淡黄緑色	40	肥前系陶器 SK793
17	かわらけ			(6.0)	EK	A	淡赤褐色	30	SK794・795
18	かわらけ	(9.6)	2.3	(4.2)	EK	A	灰褐色	30	見込に円孔1ヶ所 SK794・795
19	かわらけ	(9.6)	2.3	(5.4)	EK	C	淡灰褐色	40	見込に円孔1ヶ所 SK794・795
20	かわらけ	(10.0)	2.7	(5.8)	EK	B	暗灰褐色	40	底部に2ヶ所の円孔 灯明皿の転用か SK794・795
21	坏	12.4	3.9	5.0	BCK	A	青灰色	95	南比企産 SK812
22	罌	18.6			BK	A	暗赤褐色	50	SK812
23	罌	(20.8)			BK	A	暗赤褐色	35	SK812
24	罌	(19.4)			BFK	A	暗赤褐色	50	SK812
25	紡錘車	長径4.0×短径3.9×孔径0.8×厚さ1.5cm、重量39.6g							[有]の告示あり 石製 SK904
26	砥石	長さ(5.4)×幅2.7×厚さ2.3cm、重量50.6g							SK959
27	短刀	長さ(26.8)×身幅2.2×横幅0.4cm、重量100.47g							SK301
28	鉄製品	長さ(4.0)×幅0.6cm、重量3.49g							角棒状品 SK343
29	釘	長さ(4.0)×幅0.4cm、重量3.41g							SK346
30	鉄製品	長さ(5.6)×幅0.6cm、重量8.93g							角棒状品 SK391
31	鉄製品	長さ(2.0)×幅0.4cm、重量1.57g							角棒状品 SK391
32	丸釘	長さ(1.3)×幅0.6cm、重量0.86g							SK391
33	キセル	長さ(2.9)×径0.8cm、重量1.99g							鋼製品 吸口か SK391
34	釘	長さ(5.0)×幅0.55cm、重量6.18g							SK396
35	鉄製品	長さ(3.5)×幅0.4cm、重量1.59g							肩平角棒状 SK399
36	釘	長さ(1.65)×幅0.35cm、重量0.79g							SK399
37	鉄製品	長さ(1.3)×幅0.95×厚さ0.2cm、重量0.60g							板状品 SK399
38	釘	長さ(5.3)×幅0.45cm、重量4.08g							SK480
39	釘	長さ(2.3)×幅0.5cm、重量1.66g							SK590

第480図 土壙出土遺物(1)



第481図 土壌出土遺物(2)



土壌出土遺物観察表 (第480・481図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
40	鉄鏃	長さ(3.3)×径0.3cm、	重量1.01g						丸棒状 SK395
41	キセル	長さ(4.7)×径1.55cm、	重量6.05g						SK595
42	刀子	長さ(13.2)×身幅0.9×棟幅0.3cm、	重量12.8g						SK596
43	鉄製品	長さ(2.1)×幅0.3cm、	重量0.66g						釘? SK596
44	鉄製品	長さ(3.9)×幅0.5cm、	重量4.02g						釘? SK596
45	鉄製品	長さ(3.4)×幅0.5cm、	重量1.78g						SK596
46	鉄片	長さ(1.5)×幅(1.5)×厚さ0.25cm、	重量1.41g						SK596
47	刀子	長さ(11.3)×身幅1.1×棟幅0.3cm、	重量16.91g						SK597
48	不明品	長さ(2.6)×幅1.2×厚さ0.1cm、	重量0.78g						鋼板片 SK597
49	鉄製品	長さ(4.7)×幅0.6×厚さ0.4cm、	重量5.51g						角棒状 SK664
50	釘	長さ(3.7)×幅0.6cm、	重量3.37g						基部片 SK726
51	釘	長さ(1.4)×幅0.5cm、	重量1.73g						SK904
52	釘	長さ(5.1)×幅0.5cm、	重量7.62g						SK996

第482図 土壇出土遺物(3)

SK 596



SK 597



SK 762



土壇出土遺物観察表 (第482図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	寛永通宝	直径2.5cm、	重量2.89g						SK596 文銭 寛文8年(1668)
2	寛永通宝	直径2.5cm、	重量3.10g						SK596 文銭 寛文8年(1668)
3	寛永通宝	直径2.35cm、	重量3.29g						SK596 古寛永 寛永13年(1636)
4	寛永通宝	直径2.5cm、	重量3.32g						SK596 古寛永 寛永13年(1636)
5	寛永通宝		重量1.19g						SK596
6	古銭		重量0.41g						SK596
7	寛永通宝	直径2.5cm、	重量3.83g						SK597 文銭 寛文8年(1668)
8	紹聖元宝	直径2.4cm、	重量2.91g						SK762 北宋銭 紹聖元年(1094)

土填一覽表

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
252	N-6	N-24'-W	0.67	0.58	0.34
253	N-7	N-5'-E	0.74	0.68	0.22
254	N-7	N-50'-E	0.78	0.70	0.28
255	N-7	N-5'-E	0.84	0.76	0.25
256	N-7	N-21'-E	1.32	0.57	0.22
257	N-7	N-64'-E	0.93	0.72	0.19
258	M-7	N-54'-W	1.67	0.36	0.34
259	L-7	N-13'-W	0.72	0.66	0.16
260	N-7	N-9'-W	1.53	1.34	0.31
261	N-7	N-31'-W	0.68	0.45	0.20
262	N-7・8	N-64'-E	1.61	0.74	0.30
263	M-8	N-3'-E	1.04	0.99	0.33
264	M-8	N-20'-W	0.92	0.52	0.21
265	L-7	N-45'-E	1.02	0.96	0.12
266	K-8	N-23'-E	1.66	1.26	0.15
267	M-10	N-42'-E	1.00	0.94	0.12
268	M-10	N-36'-W	0.98	0.96	0.12
269	M-8	N-63'-E	1.30	1.00	0.44
270	M-8	N-60'-W	0.92	0.53	0.24
271	N-7	N-69'-E	1.50	0.62	0.30
272	N-7	N-39'-W	2.48	0.26	0.48
273	N-6	N-42'-W	0.94	0.72	0.27
274	N-7	N-69'-W	0.62	0.56	0.23
275	M-6	N-46'-E	3.61	0.35	0.25
276	K-8	N-6'-E	0.93	0.82	0.36
277	L-8	N-50'-W	1.57	1.48	0.30
278	L-8	N-87'-W	1.00	0.85	0.30
279	L-8	N-32'-W	1.02	0.92	0.47
280	L-8	N-47'-W	1.41	0.92	0.18
281	M-9	N-49'-W	(0.68)	0.66	0.20
282	L-10	N-52'-W	1.42	0.83	0.11
283	L-10	N-12'-W	1.18	0.98	0.18
284	L-7	N-52'-W	0.88	0.72	0.24
285	M-6	N-45'-E	0.77	0.50	0.40
286	L-9	N-40'-E	1.23	0.91	0.24
287	M-9	N-45'-W	1.49	0.60	0.27
288	M-9	N-42'-E	0.78	0.74	0.21
289	M-8	N-50'-W	2.11	0.67	0.36
290	N-6	N-40'-E	1.13	(0.83)	0.26
291	M-6	N-45'-E	0.90	0.64	0.27
292	M-9	N-62'-W	0.57	0.46	0.12
293	N-7・8	N-44'-E	0.60	0.50	0.14
294	L-9	N-3'-E	1.86	1.08	0.28
295	L-8	N-41'-E	1.10	0.92	0.16
296	L-10	N-2'-E	2.93	1.79	0.19
297	L-10	N-50'-W	2.06	0.74	0.12
298	K-9・10	N-25'-W	0.62	0.54	0.12
299	M-8	N-83'-E	(0.66)	0.62	0.08
300	M-8	N-85'-E	0.62	(0.33)	0.12
301	N-8	N-6'-W	1.18	0.50	0.14
302	M-7	N-26'-E	0.84	0.72	0.74
303	M-7	N-15'-E	1.16	0.50	0.54
304	N-7	N-30'-E	1.56	1.02	0.40
305	N-7	N-22'-E	1.30	(1.06)	0.18

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
306	N-6	N-27'-W	2.61	2.36	1.06
307	M-8	N-32'-W	1.26	0.96	0.23
308	M-8	N-10'-W	0.70	0.56	0.24
309	M-9	N-0'-E	0.72	0.60	0.46
310	N-9	N-48'-E	1.24	0.72	0.17
311	M-8・9	N-83'-E	1.40	1.21	0.24
312	M-8	N-38'-W	1.11	0.62	0.26
313	N-7	N-15'-W	0.80	0.76	0.28
314	N・O-6	N-45'-W	2.35	2.28	0.80
315	V・W-17	N-63'-E	1.78	1.24	0.63
316	Q-5	N-48'-E	3.06	0.47	0.06
317	V-17	N-49'-E	1.32	0.60	0.12
318	X-16	N-43'-W	1.90	0.74	0.47
319	X-17	N-42'-E	(0.64)	0.56	0.09
320	O-3	N-36'-W	(1.32)	0.71	0.26
321	L-7	N-55'-E	1.75	0.64	0.17
322	M-7	N-38'-W	0.73	0.66	0.12
323	N-6	N-23'-W	0.92	0.68	0.35
324	N-6	N-1'-W	0.65	0.60	0.20
325	N-6	N-20'-W	0.70	0.66	0.22
326	N-6	N-40'-E	1.22	1.02	0.40
327	N-6	N-48'-E	1.12	0.98	0.29
328	M-6	N-41'-W	1.07	0.91	0.33
329	M・N-5・6	N-47'-W	0.72	0.56	0.12
330	M・N-6	N-64'-E	0.93	0.52	0.17
331	O-7	N-18'-W	0.74	0.60	0.12
332	N-7	N-46'-W	0.46	0.37	0.22
333	X-17	N-51'-W	1.58	(0.55)	0.27
334	N-7	N-21'-E	0.60	0.47	0.27
335	M-7	N-23'-E	0.56	0.44	0.48
336	N-7	N-72'-W	0.75	0.51	0.44
337	M-7	N-45'-W	(1.10)	0.67	0.19
338	M・N-7	N-40'-E	0.56	0.46	0.18
339	S-3	N-43'-W	0.67	0.55	0.30
340	N-6	N-93'-E	1.16	0.90	0.34
341	K-10	N-45'-E	1.22	(0.83)	0.26
342	K-10	N-45'-E	1.29	0.82	0.19
343	R-9・10	N-42'-E	(2.16)	0.87	0.22
344	R-9・11	N-92'-E	2.26	0.82	0.18
345	R-10	N-57'-W	(1.56)	0.61	0.08
346	Q-10	N-60'-W	(2.00)	(0.75)	0.22
347	S-9	N-46'-E	1.93	0.61	0.08
348	T-8・9	N-50'-W	(3.18)	0.54	1.10
349	T-7	N-4'-E	(2.54)	0.68	0.25
350	T-9	N-48'-E	(0.68)	0.68	0.16
351	O-4	N-50'-W	1.84	0.63	0.10
352	O-4	N-47'-E	1.50	0.56	0.18
353	P-5	N-70'-E	0.65	0.63	0.19
354	O-5	N-53'-W	3.72	0.58	0.10
355	O-5	N-36'-W	0.96	0.88	0.68
356	O-4	N-27'-W	1.20	1.02	0.12
357	R-10	N-50'-W	4.16	0.92	0.67
358	Q-5	N-25'-E	1.03	0.90	0.16
359	N-6	N-7'-W	1.06	0.76	0.28

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
360	O-8	N-74'-W	0.18	0.80	0.14
361	O-8	N-72'-E	0.73	0.76	0.10
362	O-8	N-15'-W	0.42	0.39	0.16
363	N・O-8	N-51'-E (1.34)	0.60	0.60	0.11
364	O-8	N-10'-E	0.69	0.62	0.18
365	P-7・8	N-48'-W	2.88	0.67	0.42
366	P-7	N-42'-W	0.84 (0.62)	0.62	0.12
367	P・Q-8	N-40'-E	0.75	0.66	0.10
368	P-8	N-33'-W	1.24	0.78	0.12
369	P-8	N-37'-W	2.73	1.26	0.10
370	O-8	N-82'-E	0.95 (0.62)	0.16	
371	O-8	N-0'-E (0.60)	0.52	0.12	
372	O-8	N-70'-E	0.66 (0.52)	0.15	
373	T-9	N-23'-W	1.84 (0.40)	0.11	
374	O-8	N-38'-E	1.84	0.58	0.24
375	T・U-9	N-32'-W	2.48 (0.31)	0.11	
376	N-8	N-55'-E	0.78 (0.52)	0.14	
377	M・N-10	N-52'-E	3.42	0.50	0.11
378	M・N-10	N-58'-E	0.95	0.89	0.10
379	N-10	N-0'-E	1.97	1.60	0.37
380	N-10	N-37'-E	1.84	0.72	0.24
381	N-10	N-24'-W	1.88	0.60	0.14
382	N-10	N-73'-E	1.26	0.85	0.10
383	N-10	N-34'-W	1.46	0.55	0.14
384	O-10	N-21'-E	0.92	0.78	0.28
385	O-10	N-83'-E	0.88	0.81	0.36
386	O-10	N-50'-E	2.84	1.37	0.14
387	N-9・10	N-75'-E (1.30)	0.42	0.11	
388	N-10	N-13'-E	1.94	0.54	0.15
389	N-9・10	N-47'-W	2.27	0.50	0.08
390	M・N-12	N-8'-E	5.83	0.69	0.22
391	O-6	N-51'-E	3.70	2.80	0.18
392	O-6	N-49'-E	2.68	2.56	0.20
393	O-6・7	N-51'-E	2.88	2.67	0.20
394	P-7	N-46'-E	1.68	1.56	0.09
395	P-7	N-45'-W	1.76	1.52	0.11
396	P-7	N-40'-W	1.96	1.65	0.12
397	P-6・7	N-43'-W	2.96	2.70	0.20
398	O・P-6	N-44'-E	2.77	2.54	0.20
399	O-5・6	N-44'-E	3.60	2.55	0.19
400	O-6	N-43'-W	1.68	0.48	0.17
401	P-8・9	N-46'-E	3.47	0.68	0.44
402	O-4	N-39'-E	1.40	0.97	0.20
403	O-4	N-50'-E	1.45	0.52	0.17
404	O-3・4	N-87'-W	0.88	0.87	0.13
405	O-3	N-38'-E	1.00	0.90	0.11
406	O-3	N-37'-W	1.74	1.10	0.15
407	O-12	N-14'-W	4.08	1.00	0.43
408	O-12	N-15'-E (1.83)	0.92	0.10	
409	O-8	N-57'-E	2.78	0.50	1.06
410	N・O-10	N-55'-E	2.65	0.47	0.15
411	N-10	N-50'-W	0.95	0.83	0.37
412	N・O-9	N-89'-E	0.94	0.86	0.51
413	O-10	N-14'-E	0.83	0.74	0.22

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
414	N-9・10	N-5'-W	0.86	0.86	0.42
415	M・N-11	N-32'-E	3.50	0.43	0.06
416	P-9	N-47'-E	1.04	0.97	0.30
417	P-7	N-41'-E	0.97	0.88	0.09
418	P-7	N-26'-E	1.25	0.90	0.21
419	N・O-6	N-20'-E	1.61	1.07	0.42
420	P・O-11	N-29'-W	1.78	1.21	0.17
421	P-10・11	N-87'-W	0.80	0.73	0.15
422	P-10・11	N-6'-W	1.30	0.64	0.25
423	M-11	N-59'-W	0.77	0.60	0.22
424	N-10	N-72'-E	0.74	0.40	0.14
425	N-10	N-73'-E (1.45)	0.47	0.27	
426	N-10	N-25'-W	1.00	0.46	0.28
427	N-10	N-2'-W	1.05	0.44	0.20
428	O-10	N-2'-W	1.32	0.28	0.13
429	O-9	N-18'-E	1.10	0.50	0.18
430	O-9・10	N-36'-W	1.56	1.47	0.15
431	O-9	N-80'-E	1.34	0.60	0.12
432	P-9	N-52'-E	1.24	0.70	0.25
433	P-10	N-79'-E	0.84	0.78	0.26
434	P-9	N-41'-W	1.00	0.94	0.30
435	P-10	N-54'-E	0.80	0.74	0.19
436	P-10	N-76'-E	1.30	0.73	0.23
437	P-10	N-82'-W (0.75)	0.70	0.14	
438	P-10	N-11'-W	0.90	0.60	0.12
439	P・Q-10	N-45'-W	1.56	1.40	0.17
440	Q-10	N-7'-W	0.84	0.77	0.13
441	P-9	N-88'-W	0.80	0.62	0.19
442	P-9	N-78'-W	0.78	0.60	0.21
443	P-9	N-40'-W	1.14	0.75	0.20
444	P-11	N-55'-E	3.64	0.49	0.14
445	P・Q-11	N-24'-E	7.02	1.08	0.40
446	P-11・12	N-48'-W (5.87)	0.70	0.30	
447	O-12	N-30'-W	1.80	0.88	0.25
448	P-11・12	N-54'-W (8.91)	0.71	0.07	
449	Q-5	N-37'-W	0.95	0.85	0.26
450	Q-4	N-50'-E	1.03	0.91	0.11
451	Q-4	N-50'-E	0.70	0.56	0.36
452	Q-4	N-55'-W	0.79	0.62	0.29
453	O・P-12・13	N-49'-W	10.02	0.50	0.07
454	P-9	N-87'-W	0.92	0.87	0.36
455	P-9	N-40'-E	1.14	1.06	0.29
456	P-9	N-84'-E	0.97	0.91	0.10
457	P-10	N-38'-E (5.66)	0.72	0.18	
458	P-10	N-30'-W	1.96	0.22	0.06
459	Q-10	N-66'-E (0.85)	0.83	0.20	
460	P-9	N-28'-W (0.65)	0.27	0.20	
461	N-5	N-81'-W (1.95)	1.57	0.15	
462	O-5	N-51'-W	1.78	0.60	0.70
463	O-5	N-45'-E	0.95	0.74	0.57
464	O-5	N-64'-W	3.28	0.54	0.07
465	P-4・5	N-41'-E (1.09)	0.48	0.11	
466	P-4・5	N-7'-W	1.57	1.05	0.15
467	N-9	N-85'-E	1.00	0.94	0.43

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
468	N-10・11	N-41°-W	(1.60)	0.58	0.08
469	N-11	N-59°-E	0.75	(0.55)	0.11
470	P-7	N-32°-E	2.70	0.94	1.07
471	N-12	N-51°-E	(0.93)	0.67	0.11
472	N-12	N-13°-W	1.30	(0.86)	0.11
473	N-12	N-26°-W	(2.13)	0.78	0.20
474	N-12	N-33°-E	(2.26)	(1.15)	0.12
475	R・S-6	N-14°-W	2.70	0.53	1.01
476	N-9	N-2°-E	0.87	0.84	0.25
477	N-9	N-62°-W	0.79	0.77	0.20
478	O-11	N-10°-E	11.53	0.95	0.80
479	O・P-6	N-46°-E	4.91	(2.50)	0.66
480	P-6	N-49°-E	2.87	2.60	0.17
481	P-6	N-45°-E	2.37	1.16	0.25
482	R-7・8	N-46°-W	3.41	2.00	0.30
483	R・S-8	N-25°-E	(6.55)	0.73	0.13
484	R・S-7	N-75°-E	1.79	1.60	0.04
485	Q-7・8	N-11°-W	1.43	0.67	0.43
486	Q・R-7	N-49°-E	(0.70)	0.61	0.20
487	O・P-8	N-68°-E	0.68	0.40	0.17
488	O-8	N-53°-W	0.80	0.59	0.31
489	Q-6	N-40°-E	(1.00)	0.62	0.21
490	Q-6	N-45°-E	(4.40)	0.90	0.22
491	N-12	N-31°-E	(1.66)	(0.55)	0.15
492	P-6	N-34°-W	(1.87)	0.40	0.06
493	Q-5・6	N-51°-E	(1.78)	1.30	0.27
494	P-5	N-50°-E	1.05	1.00	0.32
495	P-5	N-52°-E	3.86	(1.40)	0.06
496	P・Q-5	N-51°-E	3.60	0.46	0.08
497	P-5	N-46°-E	4.48	1.07	0.06
498	Q・R-5	N-40°-W	2.99	2.65	0.16
499	P-5・6	N-46°-E	(1.33)	0.46	0.07
500	P-9	N-77°-W	(0.93)	(0.24)	0.18
501	R-7	N-53°-E	1.64	(1.58)	0.08
502	N-5	N-79°-E	0.82	0.73	0.80
503	P-8	N-57°-E	1.10	0.90	0.20
504	P-8	N-9°-W	0.72	0.52	0.30
505	P-4	N-57°-W	1.05	(0.50)	0.16
506	P-5	N-10°-W	0.79	0.47	0.35
507	P-9	N-46°-E	2.84	0.69	0.25
508	P-9	N-74°-W	1.40	(0.76)	0.13
509	P-9	N-35°-W	(0.94)	0.57	0.15
510	N-10	N-30°-W	1.36	0.75	0.27
511	N-10	N-90°-E	0.62	0.53	0.12
512	O-10	N-8°-E	1.02	0.53	0.30
513	P-9	N-66°-W	0.85	(0.50)	0.10
514	P-9	N-25°-W	0.70	(0.55)	0.12
515	Q-9	N-45°-W	0.80	0.43	0.22
516	Q-8	N-70°-W	(1.85)	0.66	0.06
517	Q-8	N-6°-W	2.30	0.56	0.15
518	P・Q-8・9	N-46°-E	4.03	0.40	0.17
519	O-10	N-40°-E	1.96	1.82	0.15
520	O-10・11	N-25°-W	3.48	0.93	0.14
521	O-11	N-66°-W	(3.00)	0.45	0.27

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
522	O-11	N-44°-W	0.73	0.65	0.22
523	O-11	N-31°-E	1.62	0.75	0.22
524	O-10	N-56°-W	(0.75)	(0.73)	0.10
525	Q-8	N-43°-E	(1.38)	1.30	0.10
526	P-6	N-43°-W	1.64	1.60	0.15
527	P-5・6	N-35°-E	(4.31)	1.16	0.17
528	P-5	N-48°-E	3.50	3.45	0.10
529	R-9	N-65°-W	0.90	0.72	0.15
530	S-8	N-25°-W	1.57	0.70	0.37
531	P-9	N-73°-W	0.88	(0.42)	0.26
532	P-2	N-11°-W	0.65	0.63	0.09
533	Q-2	N-38°-W	0.93	0.75	0.08
534	Q-10	N-4°-W	3.57	0.75	1.35
535	P-6	N-26°-W	(0.76)	0.68	0.11
536	O-11	N-30°-W	(3.31)	0.80	0.94
537	P-3	N-5°-W	1.68	0.60	0.20
538	Q-3	N-6°-E	0.90	0.60	0.15
539	O-10	N-2°-W	0.87	0.70	0.20
540	Q・R-2・3	N-40°-W	0.65	0.60	0.27
541	R-2	N-21°-W	1.46	0.85	0.25
542	O-8	N-59°-W	1.00	0.72	0.10
543	O-8・9	N-49°-E	2.42	0.93	0.12
544	O-9	N-63°-E	2.10	1.50	0.23
545	S-6	N-14°-W	3.17	0.93	1.21
546	T-4・5	N-44°-E	(3.72)	1.16	0.20
547	T-4・5	N-44°-E	2.50	(0.63)	0.33
548	Q-1	N-43°-E	3.24	0.82	0.08
549	Q-2	N-33°-W	0.82	(0.68)	0.24
550	R-2	N-19°-W	1.20	0.68	0.49
551	Q-9	N-76°-E	(1.06)	1.05	0.21
552	Q-4	N-8°-W	3.51	0.57	0.53
553	Q-9	N-42°-E	1.07	0.96	0.14
554	Q・R-5	N-3°-E	(1.40)	1.00	0.32
555	R-5	N-13°-E	4.93	0.65	0.05
556	R-4・5	N-48°-E	7.10	0.90	0.43
557	R-5	N-9°-E	3.48	0.70	0.11
558	Q-4	N-22°-W	0.70	0.62	0.14
559	Q-5	N-27°-W	0.70	0.61	0.15
560	Q-5	N-65°-W	1.02	0.71	0.14
561	Q-5	N-40°-E	1.46	0.77	0.34
562	P-4	N-79°-E	1.07	0.95	0.15
563	P-4	N-45°-W	0.64	0.62	0.12
564	Q-3	N-45°-W	1.16	1.04	0.33
565	P-3	N-12°-E	0.60	0.57	0.20
566	P-3	N-13°-E	1.32	0.48	0.12
567	S-4	N-38°-W	(0.86)	1.12	0.23
568	N-9	N-16°-E	3.34	0.69	1.17
569	S-5	N-53°-W	(0.80)	0.70	0.18
570	P・Q-6	N-40°-W	2.16	2.03	0.16
571	O-9	N-10°-W	0.64	0.45	0.15
572	O-9	N-23°-E	0.76	0.55	0.20
573	O-9	N-26°-W	0.70	0.50	0.23
574	R-4	N-28°-W	2.92	0.55	0.93
575	P-10	N-15°-E	(0.60)	0.58	0.10

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	短径(m)	深さ(m)
576	R-S-4・5	N-6°-W	3.45	0.63	1.15
577	S-5	N-42°-W	0.75	0.70	0.42
578	X-17	N-55°-W	(0.75)	(0.43)	0.10
579	W-16	N-30°-E	0.55	(0.32)	0.16
580	R-10・11	N-50°-E	(5.62)	0.46	0.16
581	R-10・11	N-49°-E	(3.67)	(1.06)	0.11
582	R-11	N-35°-E	(2.02)	0.42	0.28
583	R-11	N-39°-E	(4.65)	0.42	0.20
584	R-11	N-57°-W	(1.98)	0.48	0.14
585	S-10	N-41°-E	4.06	0.72	0.14
586	S-10	N-42°-E	5.13	0.97	0.15
587	R-10・11	N-40°-E	(4.02)	0.62	0.50
588	R-10・11	N-53°-W	(5.00)	0.44	0.21
589	R-10・11	N-40°-E	7.28	0.56	0.27
590	R-11	N-75°-E	1.06	0.88	0.20
591	R-11	N-39°-E	3.63	0.60	0.10
592	R-11	N-49°-W	0.80	0.50	0.16
593	R-11	N-47°-W	7.34	0.64	0.26
594	R-11	N-56°-E	7.57	1.02	0.20
595	Q・R-11	N-45°-E	(3.66)	0.44	0.16
596	R-11	N-49°-W	1.37	1.24	0.38
597	R-11	N-35°-W	1.14	1.10	0.31
598	R-11	N-61°-W	3.37	0.60	1.24
599	V-7	N-8°-W	3.90	0.82	0.07
600	U・V-7	N-10°-E	6.26	0.65	0.22
601	S-3	N-38°-W	0.76	0.72	0.40
602	V-16	N-40°-W	1.54	0.72	0.17
603	U・V-16	N-12°-E	2.37	0.60	0.08
604	Q・R-11	N-32°-W	0.80	0.76	0.27
605	T・U-16	N-89°-W	0.66	0.46	0.28
606	U-16	N-30°-E	1.78	0.70	0.14
607	T-8	N-42°-E	2.96	0.64	0.48
608	T・U-8	N-46°-W	4.22	0.68	0.28
609	T-8	N-90°-E	0.94	0.78	0.08
610	T-8	N-47°-E	(0.66)	0.52	0.10
611	U-8	N-54°-W	4.96	0.54	0.62
612	U-8	N-50°-W	(6.62)	0.78	0.34
613	U-8	N-41°-E	1.88	0.50	0.16
614	U-8	N-41°-W	(4.53)	0.68	0.33
615	U-8	N-38°-E	1.08	(0.86)	0.48
616	U-8	N-38°-E	3.28	0.86	0.16
617	U-8	N-41°-W	10.24	0.78	0.21
618	U-17	N-89°-W	2.64	0.64	0.43
619	U-8・9	N-38°-W	(2.64)	0.50	0.08
620	T-8	N-24°-E	0.68	(0.66)	0.08
621	T-8	N-52°-W	(2.53)	0.65	0.46
622	U-8・9	N-47°-W	(3.32)	0.68	0.26
623	U-5	N-47°-E	1.10	(0.40)	0.12
624	T・U-5・6	N-8°-W	3.35	0.47	1.13
625	T-7	N-48°-W	1.82	0.54	0.10
626	T-9	N-37°-W	(0.41)	0.40	0.24
627	U-8・9	N-42°-W	4.82	0.77	0.32
628	U-17	N-54°-E	1.48	0.99	0.91
629	T-8・9	N-37°-W	(1.88)	0.68	0.30

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	短径(m)	深さ(m)
630	Q-10・11	N-30°-W	2.71	0.62	1.53
631	S-13	N-53°-E	0.73	0.44	0.32
632	N-8	N-40°-E	2.07	0.60	0.20
633	T-9	N-1°-E	(1.18)	0.34	0.26
634	U-9	N-47°-E	0.64	(0.35)	0.22
635	T-9	N-44°-W	(0.76)	0.56	0.36
636	T-9	N-55°-E	1.04	0.30	0.31
637	T-10	N-43°-W	3.78	0.68	0.08
638	S・T-10	N-47°-E	1.30	0.50	0.38
639	S-9	N-22°-W	0.68	0.50	0.14
640	S-9	N-43°-E	(1.54)	0.40	0.04
641	S-9・10	N-40°-E	(2.94)	0.70	0.10
642	S-10	N-70°-W	(2.74)	(0.38)	0.06
643	S-10	N-67°-W	5.32	0.74	0.18
644	S-10	N-35°-E	(0.82)	0.56	0.06
645	V-10・11	N-15°-E	1.06	0.96	0.30
646	X-10	N-38°-E	1.74	0.64	0.14
647	X-10	N-34°-E	1.36	0.74	0.18
648	W-9	N-35°-W	1.10	0.96	0.24
649	Y-10	N-44°-E	1.14	0.70	0.11
650	Q-12	N-47°-E	4.44	0.70	0.58
651	Q-12	N-4°-E	(2.24)	0.66	0.22
652	T-17	N-45°-E	2.40	0.98	0.56
653	T・U-11	N-1°-E	2.16	0.50	0.14
654	T-17・18	N-7°-E	2.75	0.74	0.14
655	V-9	N-43°-W	2.00	0.91	1.00
656	V-10	N-43°-E	1.02	(0.64)	0.05
657	V-9	N-49°-E	1.02	1.00	0.12
658	V-9	N-43°-W	1.04	(0.86)	0.18
659	V-9	N-3°-E	1.34	0.76	0.13
660	V-9	N-49°-W	(1.46)	0.82	0.17
661	V-9	N-57°-E	1.02	1.00	0.17
662	V-9	N-17°-W	1.18	1.02	0.26
663	V-9	N-19°-E	(0.54)	0.92	0.18
664	V-9	N-13°-W	1.14	1.08	0.26
665	W-9	N-35°-E	1.16	(0.56)	0.20
666	V-10	N-50°-E	(0.77)	(0.57)	0.20
667	V-10	N-47°-E	1.06	(0.62)	0.21
668	V-10	N-49°-W	(2.50)	0.64	0.04
669	V-10	N-29°-W	1.00	0.96	0.09
670	V-10	N-7°-E	4.52	0.54	0.18
671	V-10	N-39°-E	1.67	0.76	0.38
672	V-10	N-38°-E	0.80	(0.50)	0.80
673	V-10	N-1°-E	1.05	0.96	0.45
674	V-9	N-77°-E	1.02	(0.78)	0.10
675	V-9・10	N-34°-W	1.78	0.75	0.22
676	V-10	N-43°-W	0.98	0.58	0.05
677	V-9・10	N-16°-W	1.18	0.96	0.26
678	V-10	N-45°-W	(2.10)	0.94	0.21
679	V-9・10	N-48°-E	1.10	(0.84)	0.18
680	V-9・10	N-45°-E	0.94	(0.78)	0.20
681	W-18	N-83°-E	1.62	0.70	0.30
682	W-15	N-35°-W	0.94	0.83	0.28
683	W-15	N-51°-E	0.90	0.50	0.12

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
684	W-15	N-78°-E	1.04	0.64	0.80
685	X-15	N-53°-E	1.72	1.06	0.17
686	X-17	N-9°-W	0.88	0.69	0.30
687	AB-13	N-51°-W	0.82	0.76	0.40
688	AA・AB-13	N-88°-W	1.40	(1.14)	0.12
689	AA-13	N-83°-E	0.80	0.78	0.26
690	AA-13	N-46°-E	(1.23)	0.62	0.19
691	AA-13	N-40°-W	4.90	0.42	0.14
692	Z・AA-13	N-29°-W	1.38	1.19	0.14
693	AA-12	N-8°-W	0.60	0.52	0.12
694	Z・AA-12	N-60°-E	1.96	0.74	0.20
695	AA-12	N-58°-W	0.74	0.44	0.22
696	AB-13	N-7°-W	1.20	1.00	0.28
697	AB・AC-13	N-45°-W	2.76	0.68	0.16
698	AC-13	N-66°-W	1.42	1.32	0.34
699	AB-13	N-53°-W	0.88	0.80	0.22
700	AA-13	N-54°-W	1.08	1.04	0.17
701	V-9	N-43°-W	(1.16)	(0.60)	0.18
702	V-9	N-11°-E	1.00	0.98	0.19
703	V-9	N-33°-W	1.16	0.86	0.16
704	V-9・10	N-42°-W	1.00	0.78	0.20
705	V-9	N-20°-E	1.04	(0.58)	0.16
706	V-10	N-23°-W	0.96	(0.58)	0.06
707	X-10	N-72°-W	1.25	1.06	0.23
708	Y-10	N-90°-E	0.73	0.65	0.33
709	Y-10	N-57°-W	0.82	(0.76)	0.13
710	W-11	N-10°-W	2.07	1.15	0.09
711	Y-12	N-48°-W	0.77	0.40	0.10
712	V-9	N-7°-E	0.98	(0.86)	0.18
713	U-6	N-44°-W	1.50	(0.43)	0.45
714	V-10	N-32°-E	1.03	0.92	0.22
715	V-10	N-45°-E	(2.04)	0.66	0.11
716	V-10	N-45°-E	(1.09)	0.74	0.16
717	W-9	N-45°-W	0.74	0.68	0.34
718	T・U-10・11	N-75°-W	4.41	0.70	0.43
719	W-9	N-58°-E	0.68	0.61	0.14
720	W-9・10	N-90°-E	0.92	0.74	0.22
721	X-11	N-55°-E	1.05	0.89	0.20
722	X-11	N-5°-W	0.80	0.78	0.26
723	X-11	N-55°-W	1.62	0.95	0.08
724	X・Y-11	N-88°-E	1.43	1.22	0.06
725	X-10	N-46°-E	0.94	0.90	0.19
726	X・Y-10	N-32°-W	1.46	1.13	0.22
727	Y-10	N-63°-E	0.91	0.83	0.15
728	Y-10	N-0°-E	0.91	0.70	0.30
729	Y-12	N-36°-W	2.10	0.41	0.08
730	X・Y-10・11	N-65°-E	2.00	0.82	0.20
731	W-9	N-37°-E	0.87	0.63	0.15
732	W-9	N-48°-W	1.84	0.90	0.14
733	W-9	N-5°-E	0.70	0.62	0.34
734	W-10	N-39°-W	1.67	0.79	0.09
735	W-10	N-32°-W	0.95	0.90	0.20
736	V-10	N-24°-E	(0.60)	0.57	0.13
737	V-10	N-59°-E	1.13	0.66	0.11

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
738	V-10	N-45°-W	0.91	0.87	0.25
739	W-10	N-40°-E	1.08	(0.55)	0.04
740	W-10	N-68°-W	0.75	0.69	0.21
741	X-10	N-4°-E	1.17	0.81	0.16
742	Y-11	N-77°-W	1.13	1.00	0.27
743	Y-9	N-17°-E	1.75	1.32	0.24
744	Y-9	N-73°-W	0.76	0.65	0.13
745	Y-14・15	N-89°-W	1.68	0.85	0.14
746	Y-11	N-37°-W	0.87	0.80	0.18
747	AA-17	N-70°-W	1.96	0.61	0.12
748	AA-17	N-85°-W	2.32	1.02	0.15
749	AA・AB-17	N-47°-E	3.37	0.61	0.22
750	AA・AB-17	N-63°-W	2.53	0.45	0.09
751	AB-12	N-11°-W	(2.15)	0.67	0.24
752	AB-12	N-73°-E	(1.87)	1.00	0.43
753	AB-12	N-43°-E	(0.81)	(0.37)	0.23
754	Z-13	N-12°-E	0.96	0.83	0.14
755	AB-14	N-35°-E	2.48	0.50	0.06
756	AB-12	N-82°-E	2.45	(0.71)	0.35
757	AB-13	N-21°-W	(2.46)	0.65	0.16
758	AB-13・14	N-3°-W	1.50	1.27	0.30
759	AB-14	N-84°-E	0.75	0.64	0.11
760	Z-11	N-61°-W	(0.93)	(0.56)	0.21
761	AA-11	N-50°-E	(1.80)	0.70	0.20
762	AA-11	N-55°-E	(0.96)	0.93	0.18
763	AA-12	N-79°-E	(0.62)	0.39	0.21
764	AA-11	N-47°-E	2.33	(1.04)	0.17
765	AB-13	N-20°-W	0.83	0.60	0.07
766	AB-13	N-90°-E	1.25	1.11	0.57
767	AB-13	N-90°-E	1.22	1.08	0.45
768	AB-13	N-78°-E	1.44	1.35	0.55
769	AA-15	N-87°-E	2.22	2.19	0.20
770	AA-14・15	N-52°-E	4.00	0.72	0.17
771	T-11	N-13°-E	(1.43)	0.75	0.08
772	S・T-9	N-25°-W	(1.80)	(0.40)	0.20
773	V・W-10	N-46°-W	0.71	0.61	0.06
774	V-10	N-44°-W	1.24	0.42	0.10
775	W-10	N-61°-W	(0.62)	0.44	0.10
776	V・W-10	N-46°-W	1.43	0.73	0.15
777	T-11	N-48°-E	2.65	0.70	0.07
778	T-11	N-45°-E	1.84	0.81	0.30
779	T-11	N-47°-W	(4.36)	0.80	0.23
780	T-11	N-49°-E	2.37	0.81	0.10
781	T-11	N-50°-W	2.58	0.66	0.15
782	T-11	N-53°-E	2.15	0.55	0.30
783	T-11	N-52°-E	5.38	0.69	0.25
784	T-11	N-29°-W	3.21	0.80	0.10
785	T-10・11	N-45°-E	(3.00)	0.72	0.26
786	T-11	N-47°-E	(2.15)	0.68	0.23
787	T-10・11	N-47°-E	(2.13)	1.22	0.26
788	T-11	N-22°-E	(0.41)	0.37	0.03
789	T-11	N-41°-E	(0.79)	(0.28)	0.05
790	V-8	N-69°-W	1.19	(0.95)	0.33
791	V-8・9	N-21°-E	1.23	1.16	0.40

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
792	Y-17	N-62°-W	(0.55)	0.50	0.37
793	S-11	N-24°-E	0.79	0.54	0.26
794	S-10・11	N-36°-W	4.31	0.60	0.12
795	S-11	N-37°-W	5.60	0.71	0.15
796	S・T-11	N-52°-E	5.24	0.72	0.27
797	AA-20	N-65°-E	(1.00)	0.98	0.10
798	S・T-11・12	N-1°-W	1.89	0.89	0.15
799	S・T-12	N-9°-E	(1.65)	0.70	0.43
800	S・T-11	N-35°-E	1.64	1.40	0.25
801	AA・AB-14	N-44°-E	(3.00)	0.60	0.20
802	Z・AA-14	N-6°-W	5.08	0.83	0.18
803	Z-14	N-35°-E	0.80	0.74	0.57
804	X-12・13	N-78°-W	2.81	1.30	0.95
805	Z-11	N-49°-E	(4.26)	1.12	0.26
806	Z-11	N-25°-E	(0.55)	0.54	0.15
807	Y-12	N-46°-W	(2.94)	(0.55)	0.14
808	Z-16	N-39°-E	(6.02)	0.50	0.20
809	Z-16	N-5°-W	2.02	0.81	0.28
810	Z-16	N-49°-E	(3.62)	0.54	0.25
811	Z-16	N-50°-E	(1.58)	0.49	0.08
812	Y-17	N-49°-E	(0.61)	0.45	0.57
813	Y-17	N-2°-E	1.00	0.92	0.40
814	Y・Z-17	N-25°-E	2.45	0.63	0.13
815	Z-17・18	N-48°-E	(2.57)	0.65	0.31
816	Y-17	N-64°-E	1.59	0.43	0.24
817	X-18	N-47°-E	1.98	1.25	0.04
818	X-18	N-88°-W	1.24	0.80	0.82
819	Z-19	N-43°-E	(1.51)	0.75	0.10
820	Z-19	N-37°-E	2.12	0.64	0.11
821	Z-19	N-22°-W	3.00	0.45	0.05
822	Z-19	N-67°-E	2.55	0.46	0.06
823	AA-19	N-58°-E	1.48	(1.14)	0.29
824	Z・AA-19	N-45°-W	0.90	0.87	0.14
825	Z-19	N-3°-E	0.83	(0.40)	0.12
826	AA-20	N-16°-E	1.50	0.41	0.14
827	Y-17	N-47°-W	0.66	0.58	0.47
828	Y-18	N-85°-E	0.75	0.59	0.24
829	X-20	N-22°-E	0.97	0.90	0.70
830	Y・Z-19・20	N-48°-E	1.69	1.33	0.37
831	AA-11	N-5°-E	0.70	0.54	0.17
832	X-10	N-27°-E	1.67	1.13	0.34
833	Z-14	N-70°-E	1.24	0.72	0.14
834	Z-19	N-39°-W	1.07	0.54	0.24
835	Z-19	N-24°-E	1.06	0.48	0.14
836	Z-19	N-22°-E	0.95	0.57	0.30
837	Z-19	N-30°-E	0.83	0.80	0.15
838	Z-20	N-16°-W	0.70	0.68	0.14
839	Z-20	N-69°-W	3.06	1.23	0.17
840	AA-19	N-1°-E	0.65	0.44	0.11
841	AA-19	N-0°-E	0.67	0.57	0.14
842	Z-20・21	N-55°-E	0.87	0.75	0.16
843	Y-20	N-3°-W	0.83	0.76	0.17
844	Z-21・22	N-10°-E	0.74	0.61	0.37
845	AA・AB-20	N-45°-W	1.12	0.53	0.12

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
846	N-10・11	N-27°-E	1.33	0.50	0.10
847	ST-11	N-36°-E	0.94	0.60	0.45
848	S-11	N-18°-E	1.25	0.83	0.09
849	T-11	N-56°-W	0.85	0.80	0.52
850	T-11	N-35°-W	0.72	0.45	0.19
851	T-11	N-34°-W	0.70	0.65	0.07
852	V-10	N-48°-W	2.18	0.65	0.25
853	S-11	N-44°-W	2.11	0.91	0.20
854	T-11	N-71°-E	0.64	0.53	0.07
855	T-11	N-10°-E	0.86	0.80	0.34
856	U-11	N-5°-E	1.51	(0.81)	0.23
857	U-10	N-71°-E	(0.92)	(0.47)	0.10
858	U-10	N-8°-E	(0.85)	(0.59)	0.21
859	U・V-11	N-16°-E	1.72	0.35	0.88
860	U-11	N-63°-E	0.96	(0.49)	0.08
861	U-11	N-59°-E	2.50	0.55	0.16
862	U-11	N-36°-E	0.62	0.71	0.07
863	U-10・11	N-31°-E	1.13	1.09	0.08
864	T・U-11	N-45°-E	1.22	0.76	0.11
865	U-11	N-66°-E	1.06	0.70	0.04
866	W-19	N-61°-E	0.81	0.68	0.37
867	S-11・12	N-44°-W	(1.71)	0.73	0.15
868	S-12	N-42°-E	3.00	0.72	0.11
869	S-12	N-46°-E	1.34	(0.36)	0.08
870	S-11	N-43°-W	1.28	0.77	0.17
871	AA-16	N-44°-E	2.20	0.55	0.13
872	AB-17	N-42°-E	4.43	0.71	0.24
873	AB-17	N-16°-E	3.35	0.61	0.13
874	AB-17	N-4°-E	(2.50)	0.71	0.20
875	AB-17	N-82°-W	2.28	0.70	0.23
876	AB-17	N-17°-E	(1.65)	0.62	0.04
877	AB-18	N-53°-E	2.18	0.40	0.08
878	AB-18	N-54°-E	(2.25)	0.57	0.13
879	AB-18	N-9°-W	(2.03)	(0.48)	0.07
880	AC-18	N-39°-W	(1.81)	0.64	0.23
881	AB・AC-18	N-11°-W	(1.87)	1.03	0.12
882	AB-18	N-15°-E	(2.86)	0.60	0.20
883	AC・AD-18	N-75°-W	(1.85)	(0.21)	0.22
884	AC-18	N-31°-W	(3.03)	0.71	0.23
885	AB-18・19	N-37°-E	2.63	1.55	0.24
886	AB-18	N-66°-W	1.45	1.32	0.24
887	AB-18	N-52°-W	1.21	0.95	0.48
888	AA-12	N-18°-W	(0.89)	0.56	0.17
889	Z-16	N-41°-W	(2.69)	0.57	0.22
890	AB-19	N-76°-E	2.62	0.85	0.23
891	AB-18	N-85°-E	1.24	0.87	0.30
892	AA-19	N-68°-W	2.95	1.28	0.35
893	AA・AB-19	N-11°-E	9.35	0.92	0.14
894	AC-18・19	N-75°-W	1.64	0.55	0.27
895	AB-18	N-19°-W	0.73	0.52	0.20
896	AB-18・19	N-65°-W	(0.98)	(0.70)	0.11
897	AC-19	N-90°-E	0.70	0.60	0.28
898	Y-18	N-50°-E	0.84	0.61	0.50
899	AA-12	N-90°-E	0.48	0.35	0.16

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
900	AA-12	N-43°-W	0.51	0.43	0.21
901	S-11	N-53°-W	(1.50)	0.74	0.15
902	S-11	N-47°-W	2.75	0.92	0.25
903	Z-17	N-46°-W	(0.80)	0.80	0.16
904	Z-17	N-29°-W	0.83	(0.52)	0.14
905	R-14	N-52°-E	1.80	0.82	0.38
906	R-14	N-47°-E	0.96	(0.54)	0.18
907	R-14	N-45°-W	(0.62)	0.44	0.07
908	V-11	N-6°-W	(1.98)	0.52	0.18
909	V-11	N-36°-W	0.96	0.92	0.30
910	V-11	N-58°-W	0.82	(0.50)	0.14
911	AB-14	N-86°-W	(0.75)	0.40	0.10
912	Q-14	N-74°-E	1.75	0.48	0.10
913	S-15	N-41°-E	0.75	0.60	0.20
914	V-11	N-35°-E	(1.00)	(0.39)	0.40
915	R-14	N-45°-W	0.56	(0.39)	0.10
916	V・W-10	N-9°-W	1.38	1.00	0.48
917	Y-17	N-35°-E	0.96	0.78	0.12
918	AA-18	N-29°-E	(1.78)	0.70	0.08
919	Z-17	N-27°-E	1.68	0.64	0.09
920	Z-18	N-21°-E	2.18	0.64	0.16
921	Z-18	N-11°-W	(2.98)	0.50	0.06
922	Y-14	N-57°-W	1.64	(0.48)	0.10
923	Y-14	N-41°-W	1.44	0.48	0.17
924	X-14	N-27°-W	0.76	0.64	0.31
925	Z-18	N-13°-W	1.10	0.74	0.04
926	Z-18	N-4°-W	4.18	0.70	0.14
927	AA-20	N-27°-W	1.18	(0.72)	0.41
928	Z-20	N-68°-W	4.08	0.62	0.17
929	Y-20	N-61°-W	1.10	0.76	0.10
930	Y-20	N-0°-E	1.38	1.29	0.11
931	Y-20	N-60°-E	7.30	0.48	0.10
932	Y-20	N-42°-E	(1.90)	0.44	0.08
933	Y-20	N-16°-E	(0.90)	0.42	0.20
934	Y-20	N-42°-W	(2.02)	0.40	0.09
935	X-21	N-12°-E	(1.05)	(0.54)	0.21
936	Z-18	N-1°-W	1.18	0.78	0.03
937	Z-17・18	N-85°-E	2.16	0.76	0.13
938	Z-18	N-6°-E	1.78	0.88	0.08
939	Z-20	N-41°-E	0.64	(0.54)	0.36
940	Y-21	N-53°-E	(1.60)	0.56	0.12
941	Y-20	N-89°-W	1.02	0.70	0.10
942	Y-20	N-68°-E	(1.02)	0.55	0.23
943	X-20	N-54°-E	(1.43)	0.68	0.24
944	X-20	N-7°-E	1.00	0.99	0.19
945	Z-19	N-42°-E	0.60	0.54	0.28
946	AA-20・21	N-26°-E	1.98	0.62	0.09
947	AB-20	N-13°-W	5.73	0.46	0.20
948	Z-20	N-43°-E	0.92	0.41	0.08
949	Z-20	N-42°-E	1.68	1.24	0.26
950	W-19	N-43°-W	2.64	0.38	0.04
951	V・W-19	N-19°-E	(2.20)	0.70	0.10
952	V・W-20	N-18°-E	1.64	0.76	0.12
953	AB-14	N-47°-W	0.93	(0.56)	0.16

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
954	W-19・20	N-53°-E	(0.66)	0.55	0.18
955	AD・AE-22	N-46°-E	1.17	0.95	0.18
956	U-15	N-43°-E	2.82	1.68	0.90
957	V・V-15	N-15°-W	5.56	1.60	0.41
958	U-14	N-63°-E	(2.58)	0.62	0.31
959	V-14	N-60°-E	(2.39)	0.77	0.32
960	V・W-14・15	N-68°-E	(3.97)	0.46	0.16
961	AD-21	N-5°-E	1.80	0.40	0.13
962	AD-21	N-9°-E	1.60	0.53	0.14
963	AD-21	N-76°-E	(2.00)	0.50	0.13
964	AD-21	N-11°-W	(0.65)	0.65	0.14
965	AD・AE-21	N-71°-W	(3.96)	0.45	0.10
966	AD・AE-21	N-46°-E	1.64	0.10	0.11
967	AD-21	N-2°-W	1.34	1.31	0.11
968	AE-21	N-93°-W	1.46	0.92	0.14
969	AE-21	N-52°-W	1.43	0.50	0.24
970	AD-23	N-3°-E	0.85	0.54	0.27
971	X-21	N-40°-W	1.11	1.01	0.13
972	X・Y-21	N-33°-W	(4.56)	0.62	0.26
973	Z-21	N-47°-E	5.56	0.90	0.18
974	V・W-7	N-76°-E	(1.76)	1.64	0.11
975	W-7	N-7°-W	(1.20)	1.02	0.07
976	W-7	N-12°-W	1.15	0.78	0.16
977	V・W-7	N-77°-E	(1.82)	(1.46)	0.07
978	T-13	N-89°-E	1.92	1.88	1.00
979	S-14	N-4°-W	1.02	1.01	0.26
980	Q・R-8	N-53°-E	(1.85)	0.92	0.15
981	AA-15	N-15°-W	1.08	(0.74)	0.26
982	W-20	N-1°-W	0.70	0.60	0.54
983	AA-15	N-66°-W	(1.55)	(0.42)	0.44
984	P-6	N-31°-W	0.98	0.62	0.02
985	J・K-9	N-78°-W	2.32	(0.84)	0.10
986	J・K-9	N-69°-W	2.69	1.66	0.14
987	O・P-9	N-32°-W	0.98	(0.66)	0.28
988	Q-6	N-51°-W	0.66	(0.50)	0.22
989	P・Q-7	N-16°-E	1.42	1.17	0.10
990	Q-5	N-47°-E	1.26	(0.66)	0.15
991	R-7	N-42°-E	2.65	0.90	0.40
992	Z-17	N-53°-E	(1.64)	0.84	0.14
993	V-19	N-47°-E	1.40	(0.56)	0.38
994	AA-20	N-4°-E	1.20	0.33	0.36
995	Z・AA-20	N-45°-E	7.15	0.21	0.12
996	O-10	N-54°-W	1.40	0.72	0.11
997	N-10	N-0°-E	1.12	0.88	0.38
998	R-9・10	N-51°-W	(2.28)	0.72	0.10
999	P・Q-5・6	N-42°-W	(0.80)	0.70	0.19
1000	S-10・11	N-54°-E	(3.00)	0.70	0.10
1001	L-9	N-63°-W	(0.52)	0.52	0.10
1002	O・P-9	N-23°-E	1.01	0.52	0.18
1003	O-5	N-80°-W	0.88	0.60	0.30
1004	O-5	N-64°-E	0.90	(0.68)	0.16
1005	O-5	N-31°-W	(0.62)	(0.42)	0.07
1006	W-16	N-41°-E	(1.38)	(0.50)	0.22
1007	W-16	N-42°-E	(0.90)	(0.66)	0.19

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1008	S-10・11	N-45°-E	3.37	1.31	0.26
1009	P・Q-5	N-40°-E	3.65	2.93	0.06
1010	P-7・8	N-39°-E	(1.04)	0.60	0.11
1011	Y-9	N-75°-W	1.74	0.57	0.09
1012	Q-7・8	N-50°-W	(0.74)	0.72	0.06
1013	R-10	N-22°-W	0.61	(0.48)	0.11
1014	P・Q-5	N-52°-E	(5.06)	0.68	0.18
1015	Q-2	N-63°-E	2.07	(0.54)	0.18
1016	Q-2	N-20°-W	1.10	0.41	0.10
1017	P-9	N-65°-W	0.62	0.21	0.28
1018	R-10	N-24°-E	(0.85)	0.63	0.07
1019	R-10	N-23°-W	0.60	(0.49)	0.10
1020	P-3	N-35°-E	(0.37)	(0.26)	0.11
1021	S-3	N-48°-E	1.13	(0.50)	0.70
1022	S-5	N-47°-W	0.80	0.48	0.10
1023	U-10	N-41°-E	1.76	(0.24)	0.12
1024	V-10	N-43°-E	(0.91)	(0.44)	0.06
1025	T-18	N-40°-W	4.33	1.20	0.36
1026	Y-19	N-42°-W	1.46	(0.51)	0.20
1027	S-10	N-43°-E	2.84	0.56	0.27
1028	S-10	N-40°-E	(0.79)	(0.36)	0.07
1029	S-10	N-59°-W	(1.77)	0.40	0.02
1030	V-8	N-47°-W	0.71	(0.52)	0.20
1031	S・T-10	N-37°-E	(0.32)	0.61	0.13
1032	S-9・10	N-39°-E	(2.92)	0.90	0.80
1033	S-10	N-35°-E	(0.77)	0.28	0.11
1034	V-8	N-70°-E	(1.50)	1.15	0.30
1035	R-12	N-42°-W	2.25	0.60	0.10
1036	AB-14	N-46°-E	(1.66)	1.03	0.25
1037	AB-14・15	N-44°-E	2.56	2.06	0.27
1038	P-10	N-70°-E	(1.12)	(0.36)	0.08

番号	位置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1039	P-10	N-34°-W	(1.45)	(0.35)	0.15
1040	X-20	N-27°-E	0.61	0.33	0.37
1041	V-19	N-42°-W	0.67	0.63	0.04
1042	R-11	N-58°-E	0.83	(0.49)	0.14
1043	R・S-10	N-60°-W	0.84	0.69	0.38
1044	R-10	N-60°-W	0.80	0.56	0.28
1045	T-10	N-17°-E	0.70	(0.26)	0.15
1046	X-17	N-49°-W	0.65	(0.25)	0.11
1047	W-15・16	N-15°-W	0.92	0.65	0.13
1048	X-19・20	N-11°-W	0.71	0.56	0.28
1049	X-20	N-46°-W	0.63	0.60	0.36
1050	X-19	N-54°-W	0.60	0.51	0.37
1051	P-10	N-50°-E	0.76	0.68	0.30
1052	Y-19	N-14°-W	(1.47)	(0.70)	0.15
1053	AB-12	N-78°-E	1.39	0.68	0.14
1054	R-9	N-49°-E	(0.54)	0.42	0.17
1055	X-13	N-32°-W	(2.18)	0.75	0.20
1056	X-13	N-28°-W	(2.40)	0.35	0.12
1057	R-11	N-45°-E	(3.30)	1.04	0.35
1058	P-12	N-62°-E	0.80	(0.63)	0.16
1059	P-12	N-87°-E	(3.90)	0.40	0.10
1060	P-12	N-52°-W	(0.57)	0.55	0.26
1061	W-15	N-40°-W	(0.62)	(0.42)	0.12
1062	U-6	N-45°-W	1.40	(0.45)	0.86
1063	W-10	N-29°-W	0.34	(0.30)	0.07
1064	Q-1	N-42°-E	0.76	0.57	0.48
1065	V-14	N-31°-W	(1.08)	(0.70)	0.21
1066	S-9	N-43°-E	(3.84)	1.23	0.12
1067	AA-15	N-20°-E	1.56	(0.60)	0.20
1068	Z-15	N-63°-E	(2.00)	(1.40)	0.16

9. グリッド

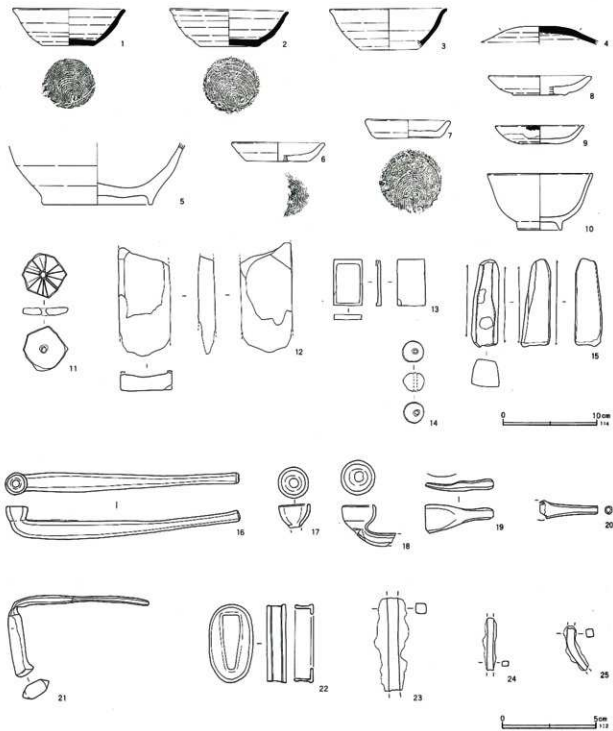
新屋敷遺跡D区では、旧石器時代から江戸時代に至るまで様々な遺構や遺物が検出された。グリッドとして掲載した遺物は、平安時代以降の表探遺物、帰属遺構の不明な遺物を主な対象としている。

出土遺物1 (第483図)

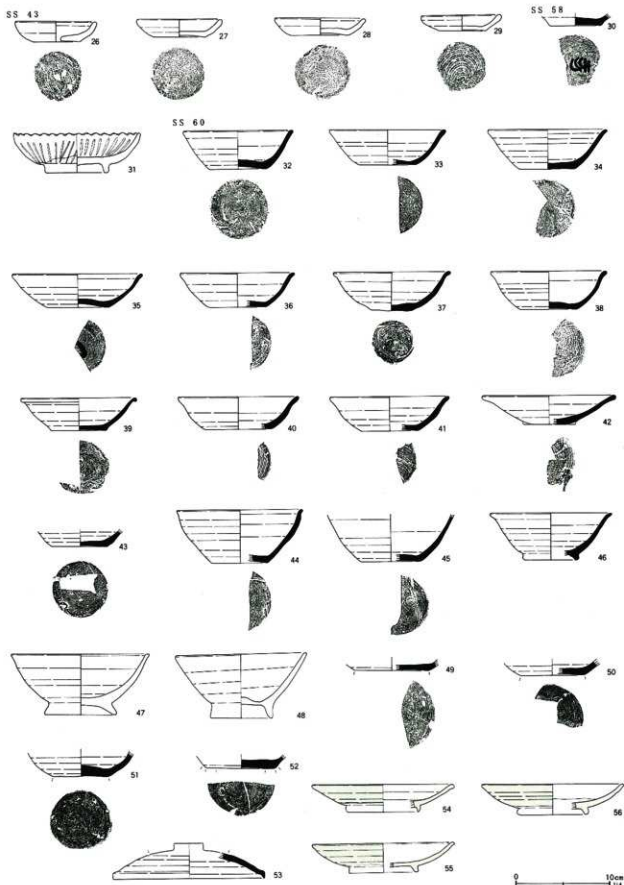
1～25は古墳跡以外から出土したもので、大部分が表探である。

1～3は須恵器坏で、いずれも体部が内湾し、口縁

第483図 グリッド出土遺物(1)

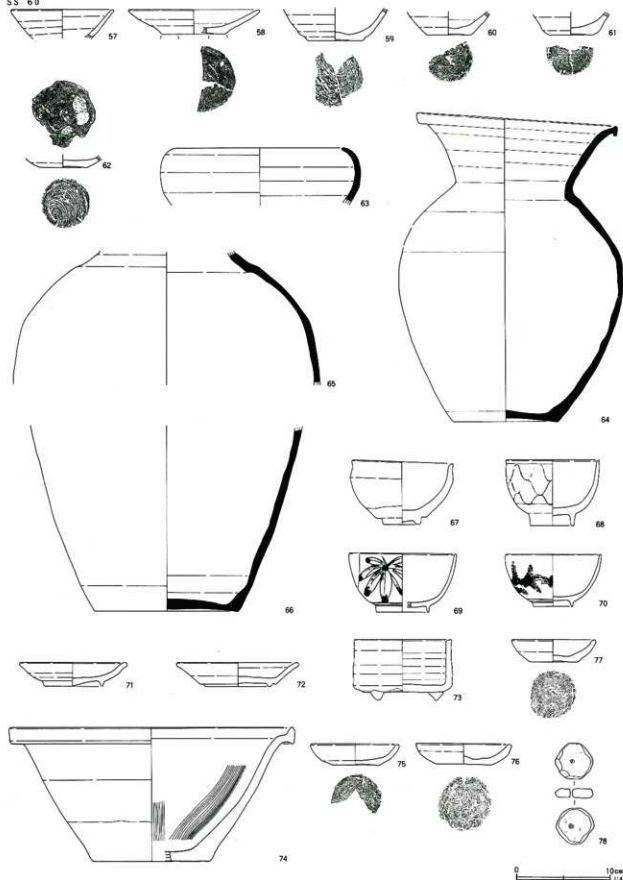


第484図 グリッド出土遺物(2)



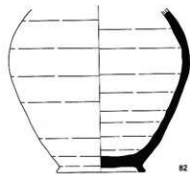
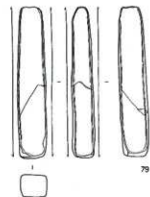
第485図 グリッド出土遺物(3)

SS 60



第486図 グリッド出土遺物(4)

SS 63



0 10cm
114

部先端で、外反するものである。3は底部を欠くが、1・2と同様回転糸切りとみられる。4は須恵器蓋の破片で、口縁部を欠く。摘みはなく、体部は回転ヘラケズリである。

5は常滑産の捏ね鉢の胴部から底部にかけての破片である。器面全体が風化しているが、内面には使用痕が明瞭に残っていた。

6・7はかわらけの皿で、口縁部が短く、底径の大きいものである。新屋敷遺跡では一般的にみられるもので、底部は回転糸切りで、中央付近を穿孔する場合もある。8は瀬戸美濃産の陶器皿である。底部付近まで長石軸がかかる。9は志戸呂産の皿で、口縁部先端付近には油滴の明瞭に残る。灯明皿として使用されたものと考えられる。10は磁器碗である。

11は焙烙の底部を穿孔したもので、焙烙の内面として使用された部分には放射状の線刻が入る。かわらけにも同様なものがあるが、用途については灯火具(燭台)として使用されたものと考え方があ

12・13は碗である。12は大半を欠損しているが、海はよく使い込まれている。13は全長5cm弱のミニチュアである。14は土玉の完形品である。やや歪であるため、穿孔は中心部を逸れている。15は砂岩系の砥石で、基部が一部欠損しているが、全面に研ぎ面が観察された。

16~22は銅製品で、16~21はキセル、22は刀装具である。いずれも錆によって青銅化している。16は完形品で、雁首がやや小型である。17・18は雁首、19・20は吸口部分の破片である。21は吸口の未製品と思われる。23~25は鉄製品の破片であるが、いずれも錆の進行が著しく、種別は不明である。23は角棒状、25は釘の可能性が考えられる。

出土遺物 2~4 (第484~486図)

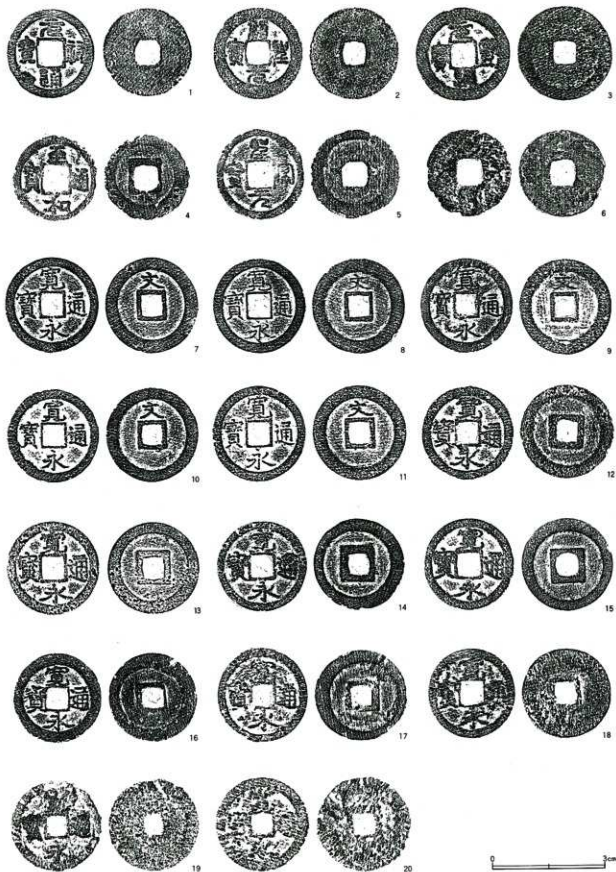
26~82は古墳跡から出土したものである。特に遺跡の中心部に築造されたSS60の周溝内からは平安時代、江戸時代の遺物が数多く出土した。

26~29はSS43から出土したかわらけの皿である。口径約9cm、底径5~6cm、器高約2cmである。全体に器厚で、口縁部は丸味をもつ。底部は回転糸切りで、26の中央部は穿孔されている。また、27・29の口縁部には油滴が付着しており、灯明皿として使用されたものと考えられる。

30・31はSS58の周溝内から出土したもので、30は須恵器杯の底部破片で、底部に「家」の墨書がある。31は黄瀬戸の菊皿である。

32~78はSS60の周溝内から出土したものである。遺物の約3割の占めるものに須恵器杯があるが、大きく分けて二種類ある。前者の32~43は、底部の調整は

第487図 グリッド出土遺物(5)



いずれも回転糸切りである。大部分は9世紀後半を中心とした坏であるが、37のように底径の小さい坏や42のように皿状の時期の異なるものも一部含まれる。後者の49-52は、底部の調整が回転糸切り後に回転ヘラケズリするものと外周を回転ヘラケズリするものがあり、いずれも奈良時代の遺物である。新屋敷遺跡ではいままでの調査では奈良時代の集落が検出されていないが、小規模ながらも周辺に集落の存在が窺われる資料である。

44・45は須恵器碗で、体部上半が強く内湾し、口縁部で短く外反する。体部はロクロの痕跡を強く残す。底部はともに回転糸切りである。46は須恵器高台付碗で、推定口径13cmと小型である。47・48は酸化焙焼成の高台付碗で、47は体部が内湾気味であるが、48は直線的にひらいている。また、高台はひらき気味で、やや足高高台になっている。

53は須恵器蓋の破片で、内外面ともロクロの痕跡を強く残している。天井部は幅は狭いが回転ヘラケズリされている。

54-56は灰釉陶器皿の破片である。釉薬は刷毛塗り、外面は体部下半まで及んでいる。高台は54は三日月、55・56は角高台となっている。胎土から東海の宮口窯産とみられる。

57-61は酸化焙焼成の坏、皿、碗である。57は坏で、底部を欠く。体部から口縁部にかけては、58と同様直線的にひらき、先端はやや尖り気味に仕上げられている。58は皿であるが、底部は回転糸切り後、外周をヘラケズリしている。59-61は小振りの碗で、底部を厚くつくる。胎土はいずれも底部などに砂粒が付着したり、細かい粒子が粉状に浮いているものが殆どである。62は酸化焙焼成ではあるが、上記の一群とは異なり、内面が黒色処理されている。また、内面には平行に刷毛目が入る。底部は回転糸切りである。

63は須恵器鉢で、いわゆる鉢鉢と呼ばれるものの口縁部の破片である。64-66は須恵器広口壺で、64・65は同一固体の可能性があり、色調は茶褐色であるが、よく焼き締まっている。66はほぼ完形品で、肩の張り

が弱い。

67は瀬戸美濃産の天目茶碗である。外面の釉薬は、体部下半のヘラケズリの部分までかかる。68-70は肥前系の磁器碗で、68は網目文、69は草木文、70は葡萄唐草文とみられる。

71・72は瀬戸産の灰釉皿である。高台はともに削りだしてある。73は瀬戸美濃産の香炉である。体部から口縁部にかけてのロクロの痕跡は明瞭で、口縁部先端は、キセルで灰を落としたとみられる打撃によって殆どの部分が欠けている。

75-77はかわかけの皿で、SS43で出土したものは口径、器高、形態などが異なる。体部と底部の間は器厚し、内面にナデの痕跡を残している。底部は回転糸切りである。78は焙烙の底部を利用した灯火具（燭台）の破片と考えられるものである。しかし、直径が小さく、古代の紡績車ほどの大きさであるため、果たして燭台として機能したかどうか疑問の残るところである。

79・80はSS63の周溝内から出土したものである。79は砂質系の砥石で、一部を欠損しているが、ほぼ菱形である。80は磁器製の人形で、裏面に直径約1cm、底面に直径約2cmの円錐状の孔が穿たれている。

81・82はSS65の周溝内から出土したものである。81は須恵器坏の底部から体部にかけての破片である。底部は回転糸切りである。82は須恵器長頸瓶の胴部から底部にかけての破片である。底部は風化のため擦れているが、ヘラ描き文字のような擦痕がみられた。

出土遺物5 (第487図)

古銭は20点出土した。20点のうち15点は寛永通宝で、残りの5点は北そう銭である。

1は元祐通宝で、1086年の初鑄である。2は聖元元宝で、1094年の初鑄である。3は元豊通宝で、1078年の初鑄である。4は至和通宝で、1054年の初鑄である。5は聖宋元宝で、1101年の初鑄である。

6-20は寛永通宝で、いずれも銅銭である。6は裏面が摩滅のために読み取れないが、7-11は背文字に

「文」と入る所謂「文銭」である。初鑄は寛文8年(1668)である。12は所謂「古寛永」と呼ばれ、寛永通宝では最も古い段階のものである。初鑄は寛永13年(1636)である。なお、新寛永は出土しなかった。

グリッド出土遺物観察表 (第483~486図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
1	坏	12.0	3.9	5.4	BCK	A	淡青灰色	100		
2	坏	12.6	3.9	6.2	BCK	A	淡青灰色	100		
3	坏	(12.4)			CK	A	青灰色	25		
4	蓋				BCK	A	淡青灰色	40	甬比金産	
5	長頸瓶			11.8	ABDK	B	灰色	40	磁石のような二次使用の可能性がある	
6	かわらけ	(10.0)	2.0	(6.8)	EK	A	淡茶褐色	90		
7	かわらけ	9.0	1.9	6.8	EK	A	淡黒褐色	70		
8	皿	(11.0)	2.0	(5.6)	K	A	灰白色	30	内外面とも灰釉付着 志野	
9	灯明皿	9.4	1.9	3.8	K	A	褐色	100	内面にも輪状に炭化物付着	
10	碗	11.2	4.6	5.9	A	A	紫褐色	100	磁器	
11	紡錘車	長さ(4.8)×短径(4.4)×孔径0.9×厚さ0.8cm、重量12.8g								転用
12	碗	長さ(11.4)×幅5.5×厚さ2.0cm、重量116.2g								
13	碗	長さ4.9×幅2.9×厚さ0.6cm、重量13.3g								
14	土玉	径2.2×孔径0.4cm、重量9.93g								
15	磁石	長さ(9.2)×幅2.9×厚さ2.9cm、重量103.6g								
16	キセル	長さ12.4×幅1.0×径1.1cm、重量16.47g								銅製
17	キセル	径1.6cm、重量3.61g								銅製
18	キセル	径1.8cm、重量4.23g								銅製 扉首
19	キセル	長さ3.6×径1.5cm、重量3.48g								銅製
20	キセル	長さ3.1×径0.4cm、重量1.78g								銅製 吸口
21	キセル	長さ7.4×径0.75cm、重量4.81g								銅製 吸口
22	刀装具	長さ4.1×幅2.35×孔径0.9cm、重量11.34g								銅製 柄元の金具?
23	鉄製品	長さ5.0×幅0.5cm、重量11.11g								角棒状
24	鉄製品	長さ2.7×幅0.3cm、重量1.26g								角棒状
25	鉄製品	長さ2.35×幅0.4cm、重量1.20g								釘?
26	かわらけ	8.6	2.2	5.0	BEK	A	淡橙褐色	95	SS43	
27	灯明皿	9.2	1.8	5.6	BHK	A	淡赤褐色	80	SS43	
28	かわらけ	9.6	1.8	6.0	BGK	A	淡茶褐色	80	SS43	
29	灯明皿	8.6	1.7	5.1	BK	A	黒褐色	100	SS43	
30	坏			5.6	BKL	A	灰色	60	墨書あり SS58	
31	菊皿	(13.6)	4.1	6.6	B	A	淡黄緑色	70	黄瀬戸 SS58	
32	坏	(11.8)	4.1	6.2	BCKL	A	青灰色	50	SS60	
33	坏	13.4	3.7	6.0	CKL	A	灰褐色	45	SS60	
34	坏	12.7	4.2	6.1	BCKL	A	青灰色	40	SS60	
35	坏	(13.8)	3.5	(6.6)	K	A	淡紫灰色	30	墨書 SS60	
36	坏	(12.2)	3.6	(6.0)	BK	A	青灰色	40	SS60	
37	坏	12.4	4.1	4.4	BCKL	C	青灰色	95	SS60	
38	坏	(12.5)	4.0	(6.2)	CKL	A	淡黄灰色	25	SS60	
39	坏	12.4	3.4	5.8	BKL	C	灰色	60	SS60	
40	坏	(12.8)	3.4	(7.2)	CKL	C	灰色	25	SS60	
41	坏	(12.6)	3.6	(6.0)	BCK	C	暗灰色	30	SS60	
42	皿	(14.4)	3.1	(5.8)	BKL	C	灰色	30	SS60	
43	坏			6.0	CKL	C	淡赤褐色	80	SS60	
44	碗	(13.4)	5.6	(6.0)	BKL	A	暗灰褐色	45	SS60	
45	碗			(6.4)	CK	C	灰色	35	SS60	
46	高台付碗	(13.0)	5.0	(6.0)	CEK	C	淡灰褐色	35	SS60	
47	高台付碗	(14.6)	6.5	7.6	EKL	A	淡赤褐色	65	SS60	
48	高台付碗	14.0	6.7	6.6	K	C	淡赤褐色	90	SS60	
49	坏			(8.0)	BCKL	A	青灰色	40	SS60	

グリッド出土遺物観察表 (第483~486図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
50	坏			7.0	CKL	A	淡青灰色	30	SS60
51	坏			6.0	BCKL	A	青灰色	60	SS60
52	坏			(7.4)	BCK	A	淡青灰色	50	SS60
52	坏	9.0	2.3	5.1	BK	A	淡赤褐色	100	SS60
53	蓋	16.2			BCKL	A	青灰色	70	SS60
54	皿	(15.2)	2.9	(8.0)	BKL	A	淡緑黄色	40	軸葉は刷毛塗り SS60
55	皿	(15.2)	3.2	7.2	B	A	淡黄灰色	30	灰軸 軸はつけかけ 口縁部丸い SS60
56	皿	15.2	3.2	(7.6)	BK	A	黄灰色	40	宮口窯産 軸葉は刷毛塗り SS60
57	坏	(10.9)			BEKL	A	淡茶褐色	60	SS60 酸化焙焼成
58	皿	(14.0)	2.6	(7.0)	K	A	赤褐色	40	SS60 酸化焙焼成
59	坏			6.0	EKL	C	淡茶褐色	50	SS60 酸化焙焼成
60	坏			4.6	EK	A	灰褐色	40	SS60 酸化焙焼成
61	坏			4.6	K	C	淡茶褐色	60	SS60 酸化焙焼成
62	坏			5.2	BCK	A	淡赤褐色	80	見込 黒色処理 SS60
63	鉢	(17.6)			CKL	A	青灰色	30	SS60
64	甕	21.4	32.2	11.0	BKL	A	暗青灰色	85	南比企産 SS60
65	甕				BKL	A	茶褐色	30	SS60
66	甕			15.6	BKL	A	茶褐色	50	SS60
67	天目茶碗	10.9	6.6	3.9	B	A	灰白色	95	口唇部は部分的に打ち割られている SS60
68	碗	(10.0)	6.9	4.7		A	灰白色	45	肥前系磁器 SS60
69	碗	11.4	6.2	(5.6)		A	淡青白色	40	肥前系磁器 SS60
70	碗	(10.3)	5.5	4.2		A	淡青白色	65	肥前系磁器 SS60
71	皿	(11.6)	2.5	(6.4)		A	暗黄灰色	40	瀬戸美濃 鉄軸 底部炭化物付着 SS60
72	皿	(13.0)	2.5	(7.0)		A	暗黄灰色	50	底部周辺炭化物付着 瀬戸 鉄軸 SS60
73	香炉	(10.5)	6.4	(8.8)		A	淡褐色	50	瀬戸美濃 SS60
74	楕鉢	(30.6)	14.1	(12.4)	KL	A	褐色	25	SS60
75	かわらけ	9.5	2.2	5.0	BEK	A	淡橙褐色	60	SS60
76	かわらけ	10.2	2.2	6.0	B	A	淡赤褐色	75	SS60
77	かわらけ	9.0	2.3	5.1	BK	A	淡赤褐色	100	SS60
78	紡錘車	長径4.0×短径3.75×孔径0.35×厚さ0.95cm、重量12.33g						25	増巻からの転用 SS60
79	砥石	長さ(16.0)×幅2.8×厚さ2.4cm、重量166.22g						50	SS63
80	人形	幅2.5×高さ4.1×底径2.3cm						50	SS63
81	坏			(5.8)	CK	B	暗灰褐色	25	南比企産 SS65
82	長頸瓶			9.4	BCK	A	暗青灰色	70	南比企産 SS65

グリッド出土遺物観察表 (第487図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	元祐通宝	直径2.3cm、重量3.16g							北宋銭 元祐元年 (1086)
2	紹聖元宝	直径2.4cm、重量2.79g							北宋銭 紹聖元年 (1094)
3	元豐通宝	直径2.4cm、重量4.69g							北宋銭 元豐元年 (1078)
4	至和通宝	直径2.2cm、重量2.06g							北宋銭 至和元年 (1054)
5	聖宋元宝	直径2.3cm、重量2.94g							北宋銭 建中靖国元年 (1101)
6	寛永通宝	直径2.2cm、重量2.36g							
7	寛永通宝	直径2.5cm、重量3.18g							背文字「文」
8	寛永通宝	直径2.45cm、重量3.29g							背文字「文」
9	寛永通宝	直径2.45cm、重量3.6g							背文字「文」
10	寛永通宝	直径2.4cm、重量2.83g							背文字「文」
11	寛永通宝	直径2.5cm、重量3.35g							背文字「文」
12	寛永通宝	直径2.4cm、重量2.35g							古寛永 寛永13年 (1636)
13	寛永通宝	直径2.4cm、重量3.59g							
14	寛永通宝	直径2.3cm、重量3.82g							
15	寛永通宝	直径2.4cm、重量3.04g							
16	寛永通宝	直径2.3cm、重量2.29g							
17	寛永通宝	直径2.4cm、重量2.97g							
18	寛永通宝	直径2.3cm、重量2.75g							
19	寛永通宝	直径2.4cm、重量2.40g							
20	寛永通宝	直径2.4cm、重量3.50g							

新旧对照表

新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番
SJ51	←	SJ107	←	SE63	←	SJ119	←	SD135	←
52	←	108	←	64	←	120	←	136	←
53	←	109	←	65	←	121	60	137	←
54	←	110	←	66	←	122	←	138	←
55	←	111	←	67	←			139	←
56	←	112	←	68	←	SD55	C区55	140	←
57	←	113	←	69	←	70	C区70-155	141	←
58	←	114	←	70	←	86	←	142	125-142-148
59	←	115	←	71	←	87	←	143	←
60	←	116	←	72	←	88	←	144	←
61	←	117	←	73	←	89	←	145	←
62	←	118	←	74	←	90	←	146	←
63	←	119	←	75	←	91	←	147	←
64	←	120	←	76	←	92	←	148	←
65	64-65	121	←	77	←	93	←	149	←
66	←			78	←	94	96	150	←
67	←	SB14	←	79	←	95	95-95(B)	151	←
68	←	15	←	80	←	96	96-118	152	←
69	←	16	←	81	←	97	←	153	←
70	←	17	←	82	←	98	98-98(B)	154	146
71	←	18	←	83	←	99	←	155	147
72	←	19	←	84	←	100	←	156	←
73	←	20	18	85	←	101	←	157	106
74	←	21	←	86	←	102	←	158	←
75	←	22	←	87	←	103	103-103(B)	159	109
76	←	23	←	88	←	104	←	160	←
77	←	24	市教委 SB2	89	←	105	←	161	←
78	←	25	←	90	←	106	106-109-113	162	←
79	←	26	←	91	←	107	←	162	←
80	←	27	←	92	←	108	←	164	←
81	←	28	←	93	←	109	106	165	←
82	←	29	←	94	←	110	←	166	←
83	←	30	←	95	←	111	←	167	106
84	←	31	←	96	←	112	←	168	←
85	←			97	←	113	132		
86	←	SA14	←	98	←	114	←	SK252	←
87	←	15	←	99	←	115	←	253	←
88	←	16	←	100	←	116	95(B)	254	←
89	←	17	←	101	←	117	←	255	←
90	←	18	←	102	←	118	138	256	←
91	←	19	←	103	←	119	119-154	257	←
92	←	20	←	104	←	120	←	258	←
93	←	21	←	105	←	121	←	259	←
94	←	22	←	106	←	122	122-123	260	←
95	←	23	←	107	←	123	122	261	←
96	←	24	←	108	←	124	←	262	←
97	←	25	←	109	←	125	124	263	←
98	←	26	←	110	←	126	←	264	←
99	←			111	←	127	←	265	←
100	←	SE56	←	112	←	128	←	266	←
101	←	57	←	113	←	129	←	267	←
102	←	58	←	114	←	130	←	268	←
103	←	59	←	115	←	131	←	269	←
104	←	60	121	116	←	132	←	270	←
105	←	61	←	117	←	133	←	271	←
106	←	62	←	118	←	134	←	272	←

新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番
SK273	←	SK329	←	SK385	←	SK441	←	SK497	←
274	←	330	←	386	←	442	←	498	←
275	←	331	←	387	←	443	←	499	←
276	←	332	←	388	←	444	←	500	←
277	←	333	←	389	←	445	←	501	←
278	←	334	←	390	←	446	←	502	←
279	←	335	←	391	←	447	←	503	←
280	←	336	←	392	←	448	←	504	←
281	←	337	←	393	←	449	←	505	←
282	←	338	←	394	←	450	←	506	←
283	←	339	←	395	←	451	←	507	←
284	←	340	←	396	←	452	←	508	←
285	←	341	←	397	←	453	←	509	←
286	←	342	←	398	←	454	←	510	←
287	←	343	←	399	←	455	←	511	←
288	←	344	←	400	←	456	←	512	←
289	←	345	←	401	←	457	←	513	←
290	←	346	←	402	←	458	←	514	←
291	←	347	←	403	←	459	←	515	←
292	←	348	←	404	←	460	←	516	←
293	←	349	←	405	←	461	←	517	←
294	←	350	←	406	←	462	←	518	←
295	←	351	←	407	←	463	←	519	←
296	←	352	←	408	←	464	←	520	←
297	←	353	←	409	←	465	←	521	←
298	←	354	←	410	←	466	←	522	←
299	←	355	←	411	←	467	←	523	←
300	←	356	←	412	←	468	←	524	←
301	←	357	←	413	←	469	←	525	←
302	←	358	←	414	←	470	←	526	←
303	←	359	←	415	←	471	←	527	←
304	←	360	←	416	←	472	←	528	←
305	←	361	←	417	←	473	←	529	←
306	←	362	←	418	←	474	←	530	←
307	←	363	←	419	←	475	←	531	←
308	←	364	←	420	←	476	←	532	←
309	←	365	←	421	←	477	←	533	←
310	←	366	←	422	←	478	←	534	←
311	←	367	←	423	←	479	←	535	←
312	←	368	←	424	←	480	←	536	←
313	←	369	←	425	←	481	←	537	←
314	←	370	←	426	←	482	←	538	←
315	←	371	←	427	←	483	←	539	←
316	←	372	←	428	←	484	←	540	←
317	←	373	←	429	←	485	←	541	←
318	←	374	←	430	←	486	←	542	←
319	←	375	←	431	←	487	←	543	←
320	←	376	←	432	←	488	←	544	←
321	←	377	←	433	←	489	←	545	←
322	←	378	←	434	←	490	←	546	←
323	←	379	←	435	←	491	←	547	←
324	←	380	←	436	←	492	←	548	←
325	←	381	←	437	←	493	←	549	←
326	←	382	←	438	←	494	←	550	←
327	←	383	←	439	←	495	←	551	←
328	←	384	←	440	←	496	←	552	←

新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番
SK553	←	SK609	←	SK665	←	SK721	←	SK777	←
554	←	610	←	666	←	722	←	778	←
555	←	611	←	667	←	723	←	779	←
556	←	612	←	668	←	724	←	780	←
557	←	613	←	669	←	725	←	781	←
558	←	614	←	670	←	726	←	782	←
559	←	615	←	671	←	727	←	783	←
560	←	616	←	672	←	728	←	784	←
561	←	617	←	673	←	729	←	785	←
562	←	618	←	674	←	730	←	786	←
563	←	619	←	675	←	731	←	787	←
564	←	620	←	676	←	732	←	788	←
565	←	621	←	677	←	733	←	789	←
566	←	622	←	678	←	734	←	790	←
567	←	623	←	679	←	735	←	791	←
568	←	624	←	680	←	736	←	792	←
569	←	625	←	681	←	737	←	793	←
570	←	626	←	682	←	738	←	794	←
571	←	627	←	683	←	739	←	795	←
572	←	628	←	684	←	740	←	796	←
573	←	629	←	685	←	741	←	797	←
574	←	630	←	686	←	742	←	798	←
575	←	631	←	687	←	743	←	799	←
576	←	632	←	688	←	744	←	800	←
577	←	633	←	689	←	745	←	801	←
578	←	634	←	690	←	746	←	802	←
579	←	635	←	691	←	747	←	803	←
580	←	636	←	692	←	748	←	804	←
581	←	637	←	693	←	749	←	805	←
582	←	638	←	694	←	750	←	806	←
583	←	639	←	695	←	751	←	807	←
584	←	640	←	696	←	752	←	808	←
585	←	641	←	697	←	753	←	809	←
586	←	642	←	698	←	754	←	810	←
587	←	643	←	699	←	755	←	811	←
588	←	644	←	700	←	756	←	812	←
589	←	645	←	701	←	757	←	813	←
590	←	646	←	702	←	758	←	814	←
591	←	647	←	703	←	759	←	815	←
592	←	648	←	704	←	760	←	816	←
593	←	649	←	705	←	761	←	817	←
594	←	650	←	706	←	762	←	818	←
595	←	651	←	707	←	763	←	819	←
596	←	652	←	708	←	764	←	820	←
597	←	653	←	709	←	765	←	821	←
598	←	654	←	710	←	766	←	822	←
599	←	655	←	711	←	767	←	823	←
600	←	656	←	712	←	768	←	824	←
601	←	657	←	713	←	769	←	825	←
602	←	658	←	714	←	770	←	826	←
603	←	659	←	715	←	771	←	827	←
604	←	660	←	716	←	772	←	828	←
605	←	661	←	717	←	773	←	829	←
606	←	662	←	718	←	774	←	830	←
607	←	663	←	719	←	775	←	831	←
608	←	664	←	720	←	776	←	832	←

新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番	新番	旧番
SK833	←	SK889	←	SK945	←	SK1001	←	SK1057	←
834	←	890	←	946	←	1002	←	1058	←
835	←	891	←	947	←	1003	←	1059	←
836	←	892	←	948	←	1004	←	1060	←
837	←	893	←	949	←	1005	←	1061	←
838	←	894	←	950	←	1006	←	1062	←
839	←	895	←	951	←	1007	←	1063	←
840	←	896	←	952	←	1008	←	1064	←
841	←	897	←	953	←	1009	←	1065	←
842	←	898	←	954	←	1010	←	1066	←
843	←	899	←	955	←	1011	←	1067	←
844	←	900	←	956	←	1012	←	1068	←
845	←	901	←	957	←	1013	←		
846	←	902	←	958	←	1014	←	SS43	←
847	←	903	←	959	←	1015	←	46	←
848	←	904	←	960	←	1016	←	55	←
849	←	905	←	961	←	1017	←	56	←
850	←	906	←	962	←	1018	←	57	←
851	←	907	←	963	←	1019	←	58	←
852	←	908	←	964	←	1020	←	59	←
853	←	909	←	965	←	1021	←	60	←
854	←	910	←	966	←	1022	←	61	←
855	←	911	←	967	←	1023	←	62	←
856	←	912	←	968	←	1024	←	63	←
857	←	913	←	969	←	1025	←	64	←
858	←	914	←	970	←	1026	←	65	←
859	←	915	←	971	←	1027	←	66	←
860	←	916	←	972	←	1028	←	67	←
861	←	917	←	973	←	1029	←	68	←
862	←	918	←	974	←	1030	←	69	←
863	←	919	←	975	←	1031	←	70	←
864	←	920	←	976	←	1032	←	71	←
865	←	921	←	977	←	1033	←	72	←
866	←	922	←	978	←	1034	←	73	←
867	←	923	←	979	←	1035	←	74	←
868	←	924	←	980	←	1036	←	75	←
869	←	925	←	981	←	1037	←	76	←
870	←	926	←	982	←	1038	←	77	←
871	←	927	←	983	←	1039	←		
872	←	928	←	984	←	1040	←	SX 9	←
873	←	929	←	985	←	1041	←	10	←
874	←	930	←	986	←	1042	←	11	←
875	←	931	←	987	←	1043	←		
876	←	932	←	988	←	1044	←		
877	←	933	←	989	←	1045	←		
878	←	934	←	990	←	1046	←		
879	←	935	←	991	←	1047	←		
880	←	936	←	992	←	1048	←		
881	←	937	←	993	←	1049	←		
882	←	938	←	994	←	1050	←		
883	←	939	←	995	←	1051	←		
884	←	940	←	996	←	1052	←		
885	←	941	←	997	←	1053	←		
886	←	942	←	998	←	1054	←		
887	←	943	←	999	←	1055	←		
888	←	944	←	1000	←	1056	←		

XI 調査の成果と課題 II

1. 平安時代の出土土器について

はじめに

新屋敷遺跡D区(以下、D区とする)における平安時代の遺構は、69軒の竪穴住居跡と3基の井戸が検出された。新屋敷遺跡全体では100軒以上の竪穴住居跡と4基の井戸を含む平安時代の集落が存在したことが明らかになった。D区で検出された住居跡や井戸は出土した土器群から、概ね9世紀後半から10世紀後半にかけて営まれたものと推定される。集落の変遷は土器群の年代から以下のI~IV期に分類することができる。ここでは各期における土器群の特色と、時期を経るごとに中心となる土器となる酸化焙焼成の土器について記してみたい。

(1) 出土土器の年代

第I期(第488図)

9世紀中頃から後半にかけて構築されたものである。S J 51・53・61・63・71・76・78・103・SE 94・121などが該当するものと考えられる。遺構の分布は比較的遺跡の西側を中心とした地域を主体にしている。基本的に住居間の距離もある程度保たれ、重複関係は生じていない。出土土器には須恵器環・埴・高台付埴・皿・蓋・長頸瓶・広口壺・甕、土師器環・埴・台付甕・甕、灰輪埴・皿、酸化焙焼成環などがあ

る。須恵器類は出土土器の約70%を占めている。環は口縁部先端が外反し、体部が張り、底部は回転糸切りするものが主体である。中にはS J 76-1のように、底部を厚くつくるものもみられる。埴は体部が張り、口縁部は緩く外反しながら、ひらくものが主体である。高台付埴は量的には埴より少なく、この段階に出現してくるものとみられる。口径は埴と比較しても大差なく、高台が角高台である。また、埴のS J 78-7にみられるようにロクロ目が強い。皿は量的には少ない。口縁部は大きく外反し、底部、口径に対する器高の比率が小

さい。蓋は破片が多く、つまみは殆ど出土していない。

長頸瓶・広口壺は口縁部の破片が多い。相対的な量は不明であるが、図示しなかった小破片も含めて2軒に1個体程度の割合で出土している。甕は胴部の破片が多く、外面は平行叩きである。

須恵器は一部不明なものもあるが、すべて南比企産と考えられる。

土師器は環を含む住居が一部存在するが、相対的には少ない。体部から口縁部にかけては横ナデで、体部中央には指による押さえか顯著である。底部はいずれも持ち手ヘラケズリである。土師器の組み合わせの中心は、台付甕と甕である。ともに口縁部はいわゆる「コ」の字口縁である。甕類の胴部調整は底部から最大径をもつ胴部上半まで縦ヘラケズリするものが多い。また、小型甕も少量ではあるが、含まれる。埴は内面が黒色処理され、横及び斜めのミガキが入る。時期的には稀で、混入品の可能性も考えられる。

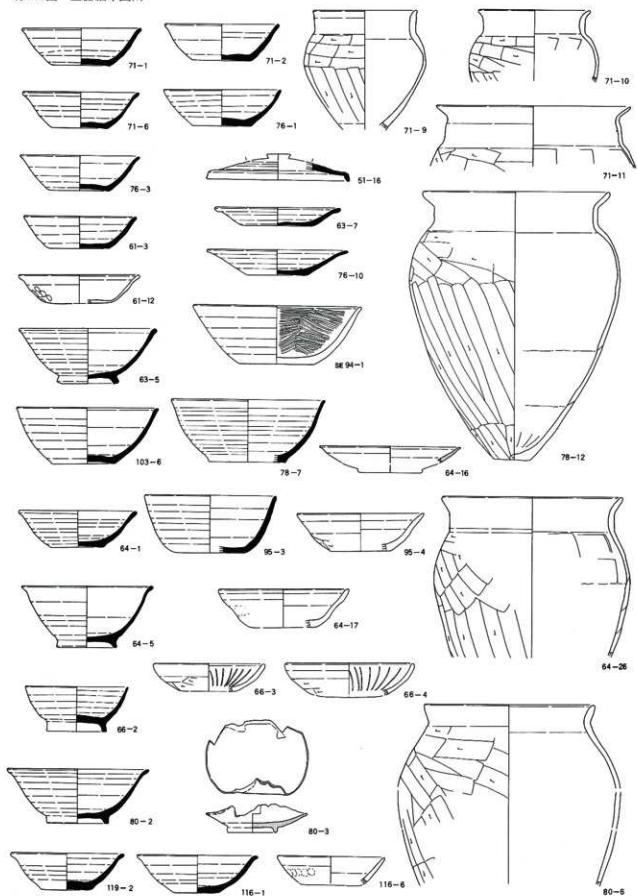
灰輪陶器は少なく、皿が数点小破片が出土したにすぎない。S J 64-16は刷毛塗り、二川産または宮口産と考えられる。

第II期(第488図)

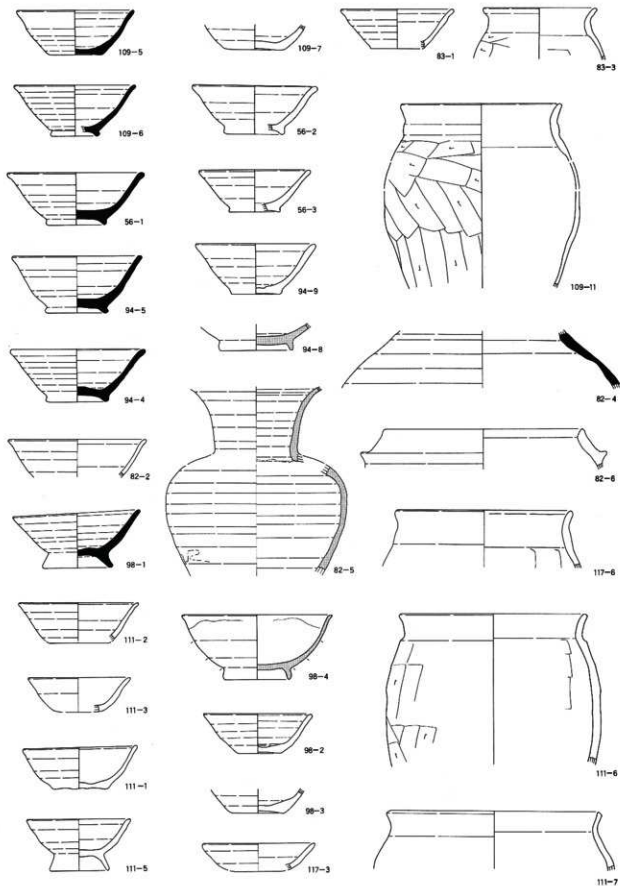
9世紀後半から末頃に構築された住居群である。S J 64・66・80・95・116・119・SE 87などが該当する。第I期の住居群との重複もみられるようになり、土器群にも酸化焙焼成の環などが混じるようになってきている。また、須恵器では高台付埴と環が次第に増加する傾向が窺われる。土器の種類は第I期とほぼ同じであるが、稀ではあるが、灰輪の耳皿なども含まれる。

須恵器は量的に第I期と同規模で推移するが、器種の比率に変化がみられる。埴は殆どみられなくなり、高台付埴または高台付環が増加する。環は底径の縮小化が始まり、口径との比率が大きくなり、S J 116-1、

第488図 土器編年図(1)



第489图 土器编年图(2)



119-2などのような形態の土器群が主体となっている。高台付埴は多様で、大小及び深身がある。高台は角高台と「ハ」の字高台が主体である。

土師器は量的にはやや増加傾向にある。特に埴は絶対量はそれほどでもないが、種類の多様化がみられる。S J 66-3・4のように内面に暗文を施すもの、S J 116-6のように小型化するものなどがある。しかし、この段階以降はいわゆる土師器埴は殆どみられなくなり、酸化焰焼成の埴類が主体となってくる。埴類は「コ」の字口縁のものからやや崩れたものあるいは口縁部の短い「ク」の字口縁への過渡期と考えられる。「コ」の字口縁の埴は、最大径が胴部上半部でもやや下がった位置に設けられるものが多く、S J 80-6のような埴でも同じような傾向がある。台付埴は埴と同じような口縁部の変化がみられ、出土量をみると減少傾向にある。

酸化焰焼成の土器類は、少なくともこの段階には出現するものと考えられる。基本的にはロクロを用い、底部は回転糸切りである。中にはS J 95-4のように底部を手持ちヘラケズリするものもみられる。

第III期 (第489図)

9世紀末頃から10世紀前半にかけての住居群と考えられる。S J 56・82・83・94・98・109・117などが該当する。集落の規模は第I・II期と大きく変わらないが、遺跡の北東側に中心が移行する傾向が窺われる。土器群の構成は9世紀代に比較して、構成上の変化が著しい。特に第II期に出現した酸化焰焼成の土器群の占める比率が高くなっている。また、須恵器の生産地は、第II期までは南比企産の占有率が極めて高かったが、10世紀頃に入り末野産などの新たな生産地も製品の供給圏として加わっている。

土師器は埴類の器厚化が進み、後には羽釜も出現する。灰釉陶器は碗・皿類が中心であるが、稀に瓶類もみられる。生産元は二川・宮口という東海西産から清ヶ谷、旗指という東遠江産、東濃産に拠点が移り、量的にも増加している。

須恵器埴は焼成の粗悪な製品が多くなり、無台と有

台(高台付埴または埴)の占有率も逆転する。また、高台付埴と埴の区別が不明瞭で、規格の画一化が進行してきたことを示している。有台の埴は末野産や南比企地域以外で生産されたものが多い。埴類は少ないが、依然として南比企産が主体で、他の地域からの供給はみられない。

土師器は埴が主体で、台付埴は殆ど姿を消している。埴は口縁部が「コ」の字の名残をとどめるもの、最大径は胴部中央になり、口縁部は短く、器厚化する。

酸化焰焼成の土器、特に埴類の増加が目立つ。埴は無台と有台があり、S J 56-1と56-2のように、有台は須恵器のそれに形態が類似する。灰釉陶器はS J 82-5のように強く釉を出すものとS J 98-4のように浸けかけてはあるが、無釉に近いものもみられる。

第IV期 (第489図)

10世紀後半以降の住居群と考えられる。遺跡の北側に小単位で構成されている。S J 111・117などが該当する。土器群の中心は酸化焰焼成の土器で、須恵器は殆ど姿を消している。土器群は埴類と埴類で構成され、胎土からみると、生産地は複数存在するようであり、須恵器以上に流通の仕組みが多極化していることを窺わせる。

酸化焰焼成の土器群は、第II期・III期と同様埴類で構成されている。S J 111を例にとると、1～3は(破片実測の影響も多少あるが)いずれも形態や大きさが異なる。2は底部を欠くが、1・3は回転糸切りである。5は「足高台」をもつ高台付埴で、胎土は3と共通である。胎土には県内の土器には稀な雲母が含まれている。1・2はやや器厚が不足するが、形態的には第III期の土器群の延長線上に位置づけられるものと考えられる。しかし、胎土においては1と2は異なっている。以上のことから、この住居の埴類は、少なくとも三つの異なる生産地から製品が購入されていることが窺われる。また、S J 117-3のように小型の浅い埴もみられる。

埴類はいずれも口縁部が短く、口縁部以外は器厚化

している。S J 111-6の甕は、いわゆる「土釜」と呼ぶもので、群馬県内などで多くみられる。胎土はS J 111-3・5の坏と共通で、雲母を多く含むものである。

(2) 酸化焙焼成の土器群

新屋敷遺跡D区では、須恵器・土師器とともに酸化焙焼成された土器群が検出された。土器群はいずれも住居跡から出土したもので、焼成遺構などに伴うものはなかった。これらの土器群には、以下のような特徴がみられる。

1. 色調は橙褐色または淡赤褐色で、中には土師器に類似するものもある。2. 胎土は肌理の細かいものと粗いものがある。概ね前者の色調は淡赤褐色、後者は橙褐色で、砂を多く含んでいる。3. 成形・調整は基本的にロクロを使用し、底部は回転糸切りである。4. 9世紀後半には出現している。

今回取り上げた土器群は、いわゆる「ロクロ土師器」として紹介されてきたものである。その呼称については、従前より論議されてきたが、「土師質土器」との明確な区別をつけにくいのも現状である。しかし、この十年余りの間に資料も増加し、適切な用語への統一が望まれるところである。本稿では敢えて「ロクロ土師器」という名称を使用せず、酸化焙焼成の土器という表現を用いることとする。また、ここでは新屋敷遺跡と同時期の蓮田市椿山遺跡との比較を通して、第I～IV期の中で酸化焙焼成の土器群の変遷について考えてみたい。

「ロクロ土師器」は少なくとも8世紀前半には成立したものと考えられているが、成立時期については地域によって状況が異なるため、一律とはいえない。新

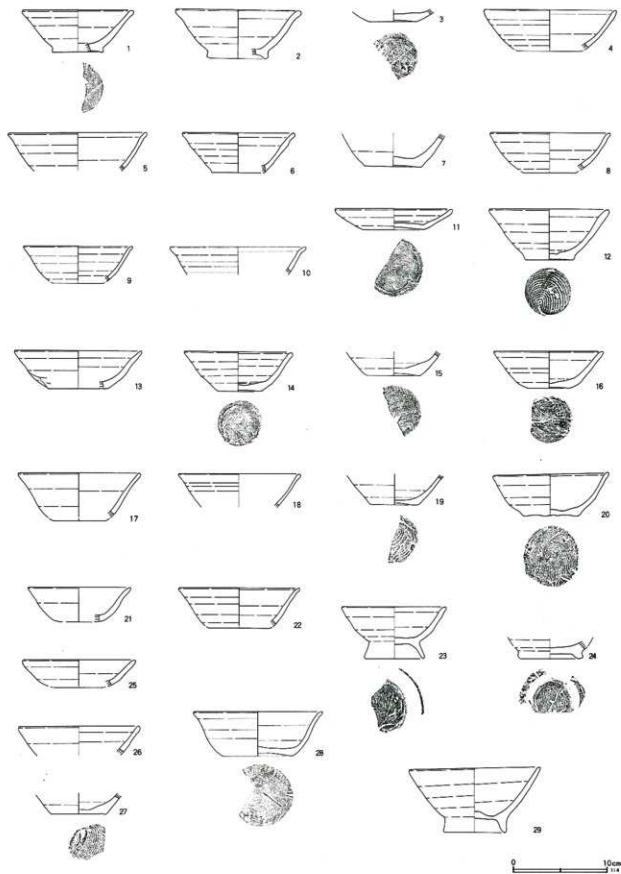
屋敷遺跡では集落の始まりが9世紀中頃と考えられる(なお、古墳の周溝には8世紀代の須恵器も含まれており、周辺には奈良時代の集落が存在する可能性も十分考えられる)。当初は供膳器の組成は須恵器坏が中心で、僅かに土師器坏はみられるものの、酸化焙焼成の土器群はまだ出現していない。酸化焙焼成の土器群が出現するのはやや遅れ、9世紀の第3四半期から第4四半期にかけてで、第I～II期に該当する。土器群といっても当初は坏だけで、皿などの器種は出現していない。坏は供伴する須恵器坏とほぼ同じ法量で、形態は口縁部が須恵器に比べて開き気味であることを除けば、類似しているといつて良い。体部はロクロ成形の後、ヘラケズリを行っている(第490図13)。小破片などを含めても灰釉陶器などと量的には同じで、副次的に入ってきたものとみられる。椿山遺跡でも同様な傾向がみられた。供伴遺物では須恵器碗の法量の縮小化・減少化が目立ち、土師器は「コ」の字口縁の變が次第に衰退し、肩の張りが弱くなる段階である。

第II期になっても量的な増加は余りみられない。やはり副次的に流通する程度の動きと考えられる。形態は須恵器に類似するが、やや小振りになり、口縁部は直線的にひらく傾向がある。椿山遺跡では新屋敷遺跡に比べてやや多いようであるが、供伴遺物の土師器甕などには「コ」の字口縁から口縁部の短いものへの過渡期の様相が窺え、須恵器では常陸・新治産の坏や甕類も入る。第III期は第II期とは様相が異なり、量的な優位は須恵器に譲るものの、住居によっては逆転している場合もみられる。形態的には高台付碗の登場や坏にも大きさの違いなどで、種類の増加がおこなわれている。椿山遺跡では須恵器では焼成の劣化したものや

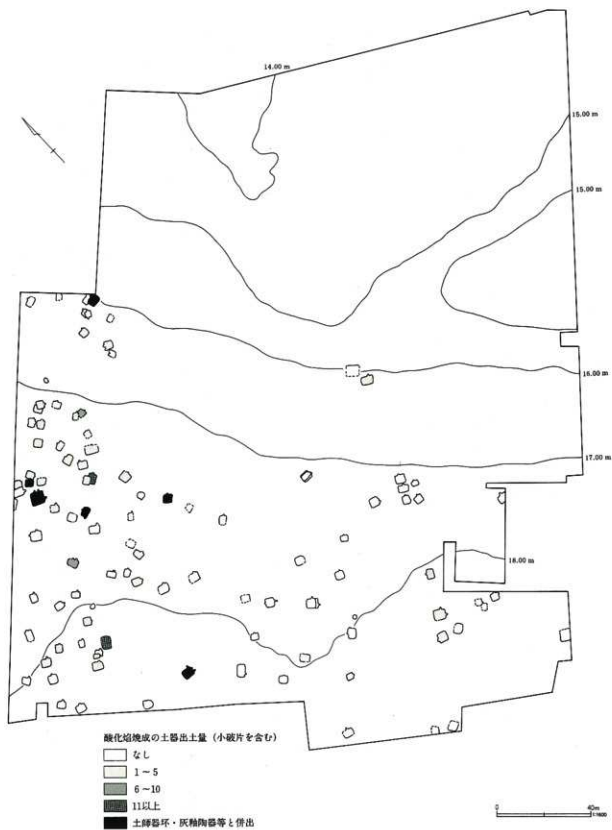
酸化焙焼成の土器集成 (第490図)

1 (S J 56-3)	2 (S J 56-2)	3 (S J 60-3)	4 (S J 70-3)	5 (S J 82-2)	6 (S J 83-1)
7 (S J 83-2)	8 (S J 91-6)	9 (S J 91-5)	10 (S J 92-5)	11 (S J 94-11)	12 (S J 94-9)
13 (S J 95-4)	14 (S J 98-2)	15 (S J 98-3)	16 (S J 102-5)	17 (S J 102-7)	18 (S J 102-6)
19 (S J 102-8)	20 (S J 111-1)	21 (S J 111-3)	22 (S J 111-2)	23 (S J 111-5)	24 (S J 111-4)
25 (S J 117-3)	26 (S J 117-4)	27 (S J 117-5)	28 (S E 121-13)	29 (G R I D-48)	

第490図 酸火焰焼成の土器集成



第491図 酸火焔焼成の土器出土量別分布図



結果的に酸化焙焼されたものも多くみられるが、酸化焙焼の土器には新屋敷遺跡ほどの変化はもたらされていない。

第IV期は須恵器と酸化焙焼成の土器群とは占有率が逆転し、住居によっては須恵器は完全に消滅している。酸化焙焼成の土器は第I～III期に比べると、胎土には個性があり、分析を進めば生産地の識別が可能と考えられる。また、ひとつの特徴として高台付埴などは「足高化」が進む傾向がみられる。坏では低器高化がみられ、皿状のものが出現している。椀山遺跡では明確ではないが、同様な傾向が窺われ、須恵器の酸化焙焼成と酸化焙焼成の土器が主体である。甕類は羽釜や口縁部の短いもので占められる。

第491図は、新屋敷遺跡における酸化焙焼成の土器を出土量別に色分けしたものである。出土した住居跡をみると、D区に酸化焙焼成の土器分布の中心があることがわかる。また、時間的な問題もあるが、分布の傾向として数量の少ない段階＝第I～II期は多くの住居に入るようである。これは供伴する土器器坏の量的な問題を考えると、最初の変革期がこの段階になると考えられる。

第490図は新屋敷遺跡から出土した酸化焙焼成の土器を集めたものである。これらの土器群には図を見る限り、須恵器に類似した形態をもっていることが窺える。特に出現期の土器は分量なども殆ど同じで、生産の前提に須恵器を意識した動きがあったものと考えられる。また、10世紀に入ると、他の土器群と同様古代後半の土器群への変貌の様子が須恵器とは好対照である。須恵器は器種や量的な減少とともに焼成や形態が次第にその姿を失っていくが、酸化焙焼成の土器は高台付埴や皿などの器種を中心に量的な増加がみられ、土器組成の変換点に当たっていることを示唆している。特に須恵器が集落内にみられなくなる10世紀後半頃になると、足高高台や坏の小皿化（本来の小皿で

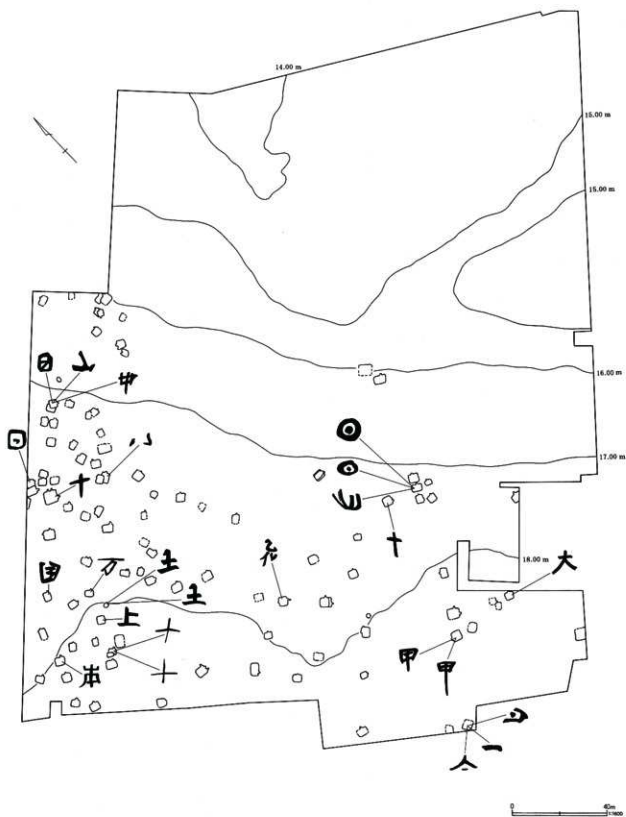
はない）が進み、須恵器が行ってきた「変化していくための変化」が主力土器となった酸化焙焼成の土器群の中で行われていたことが予想される。現時点ではこうした変化が独自に行われたかあるいは別の器からの影響かは判断できないが、酸化焙焼成の土器群には、流通・生産などの時代を反映した動きを読みとることができる。

また、新屋敷遺跡からは9世紀第4四半期前後の住居跡や井戸から墨書土器が二十数点出土している。墨書いづれも須恵器にかかれたもので、文字には「十」・「土」・「上」・「日」・「甲」・「山」・「中」・「◎」・「革」などがある。「革」は則天文字とみられる。いずれも文字は一文字で、一部を除き一つの遺構に複数の墨書土器が出土する場合は、同じの文字の土器が多い。最も多いのは「十」で、以下「日」・「◎」の順である。

墨書土器は一般的に一文字のものが多く、その墨書のもつ意味については、所有者、地名(郡名)、数字などがあげられているが、実態は不透明である。しかし、墨書土器には出土の仕方には同一文字の多用、同一遺構に集中することなどが特徴としてあげられる。新屋敷遺跡の場合、墨書された土器の年代に大きな差はなく、一定の期間に集中し、器種も無台の坏に限られていることなどがあげられる。また、直接の関連性はないと思われるが、新屋敷遺跡に限ってみれば須恵器や土師器に加えて酸化焙焼成の土器の定着化など、土器群が変革していく時期にあっており、興味深い点が多い。

以上、新屋敷遺跡における平安時代の土器群について、形態の特徴や供伴遺物との関連を概観的に述べてきた。内容に検討不足などで不十分な点が多いが、別の機会に補足していきたいと考えている。また、新屋敷遺跡では、住居内から鉄製品とともにスラグも出土し、鉄生産との関わりも指摘されている。あわせて今後の検討課題としていきたい。

第492図 墨書土器分布図



引用・参考文献

- 赤井博之 1997 「新治窯跡群の基礎的研究—奈良・平安時代の須恵器編年を中心として—」『土曜考古』第21号 土曜考古学研究会
- 赤井博之・佐々木義則 1996 「新治窯跡群須恵器AⅠの変化」『奈良岐考古』第18号 奈良岐考古同人会
- 市川 修 1977 「田中前遺跡」埼玉県遺跡調査会報告書第32集
- 大谷 徹 1995 「新屋敷遺跡C区」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第175集
- 小倉 均ほか 「井沼方・大北・和田北・西谷・吉場遺跡発掘調査報告書」浦和市遺跡調査会報告書第20集
- 書上元博 1996 「八木上・八木・八木前・上広瀬北・森坂北・森坂」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第165集
- 酒井清治 1984 「白耕地(Ⅱ)」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第33集
- 篠崎 潔 1990 「白樹原・松下遺跡Ⅱ」白樹原・松下遺跡調査会
- 篠崎 潔 1991 「白樹原・松下遺跡Ⅲ」白樹原・松下遺跡調査会
- 篠崎 潔 1992 「白樹原・松下遺跡Ⅳ」白樹原・松下遺跡調査会
- 寺内正明 1989 「梅山遺跡—第3・4次調査—」埼玉県蓮田市文化財調査報告書第13集
- 富田和夫 1995 「関東地方における土器焼成遺構の概要」『古代の土器焼成遺構について』窯跡研究会
- 富田和夫 1997 「関東西部—武蔵国を中心に—」『古代の土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会編
- 半澤幹雄 1997 「関東東部—千葉県内の事例を中心に—」『古代の土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会編
- 昼間孝志 1994 「桜沢窯跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第143集
- 望月精司 1997 「10—12世紀の土師器生産と供給の様相」『シンポジウム北陸の10・11世紀代の土器様相』北陸古代土器研究会
- 渡邊高弘 1992 「千葉市宇津志野窯跡確認調査報告書」千葉県市文化財保護協会
- 渡辺 一 1990 「鳩山窯跡群Ⅱ」鳩山窯跡群遺跡調査会・鳩山町教育委員会
- 渡辺 一 1996 「大宮古地東部における平安時代の二三の問題」『葛城地域文化の研究』下津弘君・塚越哲也君追悼論文集
- 渡辺正人 1989 「御藏山中遺跡Ⅰ」大宮市遺跡調査会報告書第26集
- 渡辺正人 1992 「御藏山中遺跡Ⅱ」大宮市遺跡調査会報告書第33集
- 渡辺正人 1993 「永川神社東遺跡・永川神社遺跡・B-17号遺跡」大宮市遺跡調査会報告書第42集

2. 新屋敷遺跡の性格について

(1) 江戸時代以前の新屋敷遺跡(第493区)

新屋敷遺跡の調査では、中・近世の遺構・遺物が数多く検出され、館跡や屋敷跡の存在が指摘されるようになってきた。

中世については、溝や井戸などの遺構が中心で、遺物は少ない。南東側では、断面形態が箱菜研の構え堀状の堀跡が検出され、館跡の北及び西側の一部と考えられている。さらに周囲には鍵型に溝で区画された屋敷地とみられる空間が連続し、中には掘立柱建物跡や井戸などが配置されている。また、これらの区画には大小があり、いずれも東側にひらく出入口とみられ

る「空き」が設けられている。この「空き」は、遺跡の北及び東側から入る二つの大きな谷地形にはみられず、谷地形付近では溝が地形にあわせて流れ込むように途中で掘り込みが止まっていた。遺物は16—17世紀頃の瀬戸美濃産陶器類など破片が出土している。

遺跡の中央やや南寄りには、調査区の西側でほぼ直角に屈曲し、遺跡を東西に横切る溝SD1・72・23・39が検出されている。SD1は西寄りでは幅が広く、SD2と重複する地点では段差が設けられている。SD23・39の始まる中央付近は古墳跡と重複しているため、正確な幅は不明であるが、断面の観察からは掘り

直した痕跡も認められる。また、遺物は13~17世紀頃を中心とし、常滑産の片口鉢、甕、中国産の青磁碗、瀬戸美濃産の銅皿、肥前系磁器碗類、焼塩壺、古銭などが出土している。遺物の出土位置は、地形の傾斜がやや緩くなった遺跡の中央部から東寄りにかけて多く出土している。この付近は標高約15m余りて、鍵型に溝で区画された遺構がある。この区画には掘立柱建物跡が数棟検出されている他に大規模なピット群もあり、これらの一部が建物群を構成していた可能性も十分考えられる。SD1と区画の先後関係は明らかではないが、前後する時期とみてよいであろう。

新屋敷遺跡の中世については、年代決定の根拠となる出土遺物の絶対量が少なく、存続年代に関する実態はやや不明瞭である。遺物からは少なくとも二時期以上の年代設定が可能である。後者については溝の覆土中からの出土のため、混入した場合も考えられるが、近世になっても区画溝として再利用された可能性も否定できない。なお、実年代については前者は鎌倉末から室町時代前半、後者は室町時代末頃と考えておきたい。

(2) 江戸時代の新屋敷遺跡 (第494図)

新屋敷遺跡ではC区、D区の西側を中心に江戸時代の遺構・遺物が数多く検出された。遺構は掘立柱建物跡、井戸、柵列跡、溝、土壌などから成り、溝で区画された中に掘立柱建物跡、柵列跡、井戸が窺われている。遺物は井戸、溝を中心に出土し、陶磁器類、漆器類、木器類、焼塩壺・石臼、古銭、キセル、櫛などがある。また、柵列や土壌の一部には覆土中に天明三年(1783)に降下した浅間山の火山灰が含まれている。

新屋敷遺跡の江戸時代の遺構は、出土遺物などから大きく二時期に分けられる。第1期は出土遺物の大半を占める17世紀後半から末頃である。遺構の大半は遺跡の西側に集中し、検出状況から遺構の中心部分はさらに西側に延びているものと推測される。検出された遺構は、掘立柱建物跡・井戸・柵列跡・溝などで構成される。

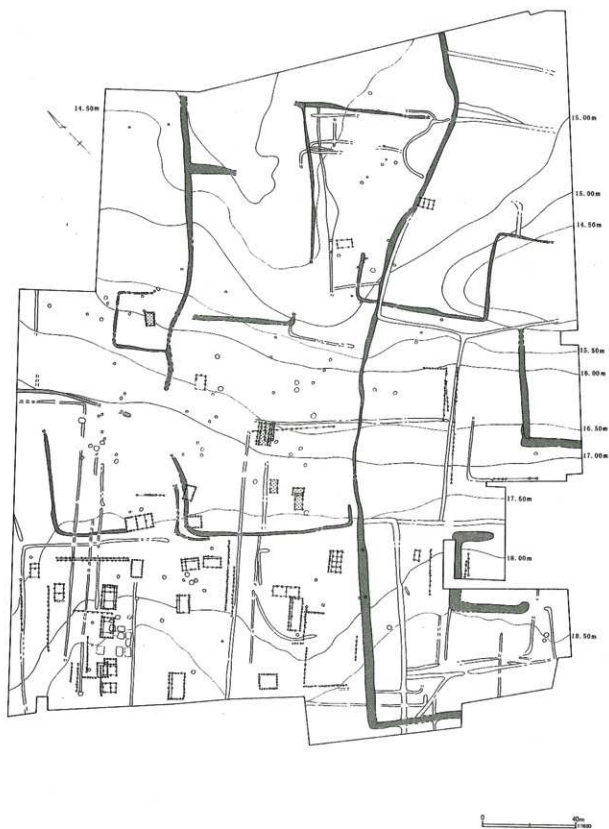
掘立柱建物跡は桁行が4間・5間・7間があり、4間が最も多い。梁行は2間で、北側や東側に下屋状の差し掛け屋根をもつ建物が多くみられた。この差し掛け屋根には二種類あり、柱の掘形が他の側柱と同規模のものや側柱よりひとまわり小型のものがある。どちらも梁行の半間または半間弱の軒が身舎に取り付くものと考えられる。規模などから建物群の中では、主体的な構造をもつ建物であることは明らかであるが、細かな構造などは今後の課題である。

区画は基本的に溝によって決定されている。鍵型またはL字状に掘られた溝と直線的な溝の組み合わせで、区画が決定されている。鍵型またはL字の溝は、出入り口になると思われる部分に必ずあり、中世の場合と類似している。スクリーントーンで示した部分は、いずれも17世紀後半頃と考えられる遺構である。建物と溝は重複することなく、建物と溝は平行関係を保ち、構築されていることがわかる。

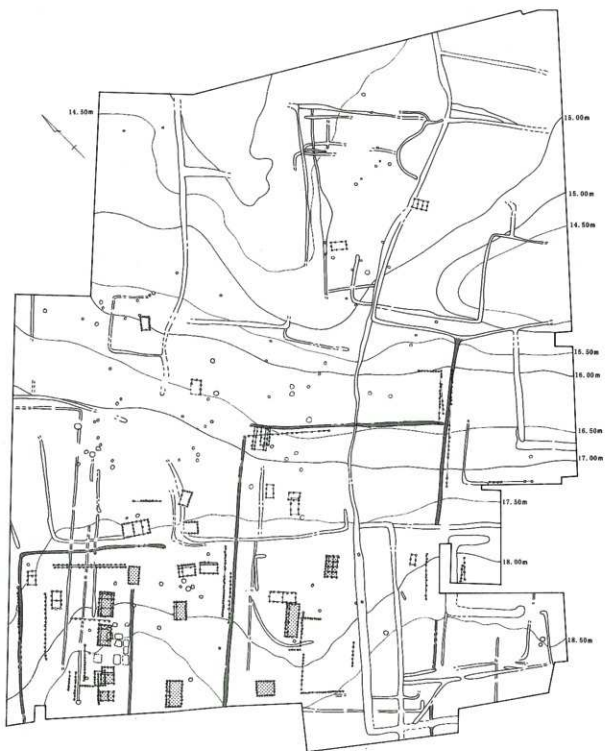
一方、井戸は120基余り検出されたが、大半は近世につくられたものである。建物に比べるとその配置是不規則で、建物に対する位置関係などの規則もみられなかった。井戸のつくられた位置として注目しておきたいのは、SD1やSS60などの中にも構築していることである。SD1では2基、SS60では6基の井戸が構築されている。古墳や溝の覆土の方がローム層を掘り込むより、容易であったと推測されるが、断面観察からは一度に埋まったような痕跡があり、古墳や溝の覆土では崩落の危険性も高かったことが窺われる。また、SS60では墳丘があったと推定される位置には井戸などの遺構はまったくみられなかった。中世の溝が途中で止まっているのも依然として墳丘が残っていた傍証ともいえ、ある意味では墳丘が区画の壁となっていたため、溝などで区画する必要がなかったものともいえよう。

柵列跡は建物に並行して構築されている。17世紀後半頃と考えられる柵列跡は、主に建物北側に接して構築され、建物の掘形と同規模の掘形をもっている。この時期の柵列跡は全体に短く、掘形は円形で、大きさ

第493図 江戸以前の遺構配置図



第494図 江戸期の遺構配置図 (17世紀後半)



が不揃いの場合もある。また、基本的に建物は切り妻造りと考えられることから、建物の軒の出が棚列と接する可能性もあり、構造上問題も残る。『江戸図屏風』に右隻第一層から二層にかけて描かれている鴻巣御殿では、建物と塀は近接して表現されている。勿論、表現上の誇張もあると思われるが、強ち否定できるものでなく、今後の類例を待ちたい。

他にはSD1の覆土中に土壌墓が1基検出されている。土壌墓は溝が中程まで埋まった時期に覆土を掘り込んで埋葬している。出土遺物の瀬戸美濃産の香炉からは、17世紀後半のものとみられ、同じく溝中に掘り込まれた2基の井戸との時間的な関連性が課題として残る。

第II期は一部の棚列跡や土壌にみられる浅間山の噴火に伴う火山灰（浅間A-1783年）の時期である。この段階になると、獨立柱建物跡は姿を消し、SX-10・11のような礎石立建物と考えられるものへと変化していったものと推測される。井戸は明確ではないが、棚列の範囲が拡大されていることを考慮すると、相当数存在したものと考えられる。初期の区画溝は、この段階には17世紀後半の遺物の出土状況を見るとほぼ埋まっていたとみられ、その後新たに棚列と並行して掘られている。

棚列は基本的に溝に並行して構築されている。17世紀代の棚列に比べると柱間は等間て、深さも一定している。長さは溝に合わせたものではなく、建物など前提に構築されたとみられ、長くても20間前後である。

引用・参考文献

- 小川 望 1998 「近世江戸出土の土器類」『江戸と周辺遺跡』江戸遺跡研究会
後藤宏樹 1992 「江戸遺跡出土食器の変化と特質」『國學院雑誌—特集 江戸の考古学—』國學院大學
佐々木達夫 1985 「物資の流れ—江戸の陶磁器—」『季刊考古学—江戸時代を掘る—』季刊考古学第13号
東京都教育委員会・朝日新聞社 1991 『お江戸八百八町地下探検—東京の遺跡展—』
辻間孝志 1997 「鷹狩りと鴻巣御殿」『埼玉自治』第557号 埼玉県自治研究会

土壌は第I期の建物群が集中する地域に10基余り検出された。規模は小型の竪穴住居跡ほどあり、覆土が火山灰一色になるほどであることから何らかの建物が廃棄または壊され、後に火山灰が混入したものと考えられる。また、第II期の遺構は出土遺物が少なく、火山灰を伴う遺構以外からの年代の想定が難しい。なお、現状ではこの段階以降の遺構は検出されていない。

以上のように、新屋敷遺跡の館跡や屋敷地として発展してきたことが窺われる。特に江戸時代については、以前より『新編武蔵風土記稿』に「古へ鴻巣御殿ありし頃、御鷹部屋ありし所といふ」と記載されていることから、「鷹部屋」の候補地として考えられてきた。今回のD区を含めた新屋敷遺跡調査結果からは、必ずしも「鷹部屋」や隣接していたとみられる鴻巣御殿に直結するような遺構・遺物は得られなかった。しかし、遺跡の西側に広がる遺構・遺物は武士階級にみられるもので、「鷹部屋」などに関連する人物の屋敷地の可能性も考えられる。

この頃の注目される人物としては、天野彦八郎忠雄がいる。代々武蔵国忍原の代官である天野家は、忍・鴻巣の鷹場支配を行ってきており、正保元年（1644）に忠雄の父忠頼が鴻巣に役替えになり、以後忠雄が家督を継承して、延宝二年（1674）に鳥見役に就いている。その後忠雄が鳥見役を辞するのが天和二年（1682）である。新屋敷遺跡から出土した遺物は大半がこの段階のものであり、天野家二代の鳥見役に関連した屋敷地の一部である可能性も考えられる。

(3) 出土遺物の産地と特徴

新屋敷遺跡は『新編武蔵国風土記稿』の記載から、鴻巣御殿に付随する「御鷹部屋」があった地域に比定されている。また、鴻巣御殿廃絶後も鳥見役の屋敷があったのではないかと考えられている(昼間 1997)。

当遺跡では区画溝や柵列から、天明三年(1783)噴火の浅間山火山灰が確認された。そのため、天明三年までには屋敷としての役割を終えていると思われる。

ここでは、出土遺物をもとに新屋敷遺跡の性格を考えてみたい。

陶磁器の組成

新屋敷遺跡において出土した陶磁器類は、A区から今次調査区のD区まで含めると320点である。この数字は個体数であり、器種の特定できないような破片、細片は含めていない。また、図版には示されていない資料も多く含まれていることを付記しておく。

新屋敷遺跡出土の陶磁器は、江戸との比較で言えば、17世紀末葉に位置づけられるものを中心としている。

比較的新しいものでコンニャク印判が数点、「雨降り文」の染付が1点、型紙描繪の香炉が1点などである。くらわんか手や広東碗などは出土していない。

このことから、本遺跡の下限は18世紀初頭に想定できる。逆に上限は17世紀前葉の水注(第422図-3)や徳利(第440図-28)などを除くと、鴻巣御殿が造営された文禄二年(1593)から17世紀前葉のものは極めて少ない。出土したものの八割以上が17世紀後葉から18世紀初頭のものである。

出土した陶磁器の器種や、生産地の比率はグラフ(第495図)のような結果であった。

生産地別で見ると、肥前系陶磁器と瀬戸美濃系陶磁器がほぼ同数確認され、次いで在地産が多い。

肥前や瀬戸美濃系以外では、常滑、志戸呂、堺、丹波、京都などを産地とするものが出土しているが、確実に京焼に比定できるものはなかった。唯一、京焼系でカウントしたのは土人形(第424図-39)である。

次に器種について見てみる。器種は近世土器組成表

に示したようなものが出土している。その中で新屋敷遺跡として特徴的なものを提示しておく。

碗類は肥前系が最も多く、磁器が34点、陶器が24点である。陶器には、呉器手や楼閣山水文の描かれた京焼陶器なども含まれている。

瀬戸美濃系碗では16点中13点が天目茶碗であり、17世紀の段階では日常雑器としての瀬戸美濃系碗生産、および流通が十分でなかったことが窺える。

漆器椀は確認できたものだけで20点前後である。それに対し、碗類の出土数が多いということは、木器から量産型陶磁器への転換期に位置していると考えられる。この転換期は、江戸では17世紀中葉に当たり(成瀬・堀内 1990)、当遺跡では若干遅れていることになる。

皿類は、肥前系が19点、瀬戸美濃系が33点である。碗類とは異なり、肥前系が瀬戸美濃系に比べて少なく、中でも磁器は5点に過ぎない。一方、瀬戸美濃系は灰釉小皿や菊皿が多いが、一括して複数の枚数が出土するといったことはなく、同一器種を意識的に揃えていたわけではないことが窺える。

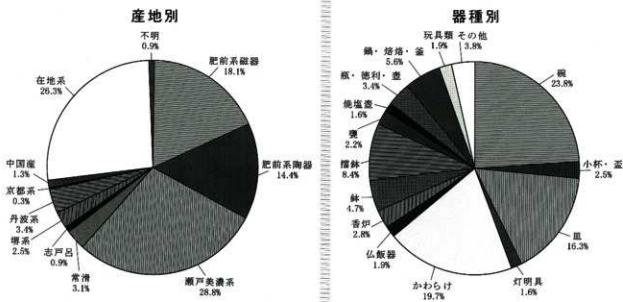
播鉢に関しては瀬戸美濃系、丹波系が多い。堺産の播鉢は3点確認されたが、一括遺物として確認されたものであり、17世紀後葉の段階でどの程度入っていたかは不明である。

ここまでの様相を見ても、明らかに瀬戸美濃系製品の需要が多い。供給の問題か地理的・流通面での問題は定かでないが、当時瀬戸美濃系においては不足があった碗類を除くと瀬戸美濃系製品を中心に需要していたと思われる。

香炉は遺物総数の割に、まとまった点数が確認されている。すべて三足の香炉であり、全9点中6点が口縁部に波状の破損が見受けられ、「灰落とし」として転用されたものと思われる。

遺跡の性格上、香炉を多数使用していたとは考え難い。香炉の他に、口縁部に波状の破損が見受けられるものは小環のみで、2点(第424図-32・第428図-64)が該当している。出土量の多い碗類の中には見受けら

第495図 近世土器出土比率



近世土器組成表

器種	肥前系磁器	肥前系陶器	瀬戸美濃系陶器	常滑	志戸呂	堺系	丹波系	京都系	中国産	在地系	不明	合計
碗	34	24	16						2			76
小杯・盃	2		6									8
皿	5	14	33									52
灯明具			2		3							5
かわらけ										63		63
仏飯器	6											6
香炉	3		5								1	9
鉢	1	7	4	3								15
播鉢			13			3	9				2	27
甕				7								7
焼塩壺						5						5
瓶・德利・壺	5		6									11
鍋・焙烙・釜										18		18
玩具類	2							1		3		6
水滴			2									2
蓋									1			1
茶入			1									1
煙硝摺			1									1
盤							2					2
天目台			1									1
合子									1			1
卸皿			1									1
建水		1										1
入子皿			1									1
合計	58	46	92	10	3	8	11	1	4	84	3	320

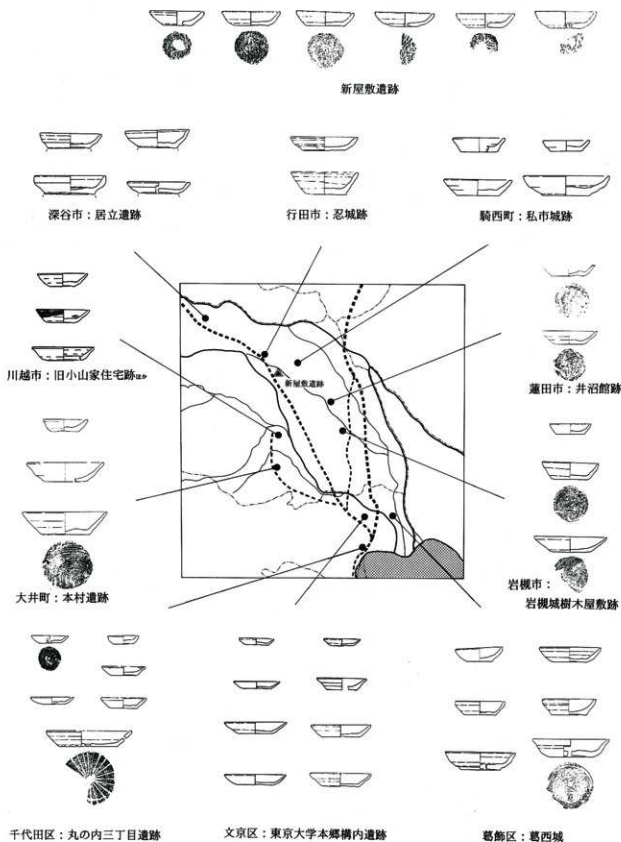
れず、そのような中で口縁が破損している香炉の数が多いうことは、初めから香炉を「灰落とし」として購入したのではないかと考えられる。

この時期、「灰落とし」として体系付けられた陶磁器

は成立しておらず、香炉が「灰落とし」として利用されている事例が多いことから考証の必要があろう。

焼塩壺は、枠線一重「天下一堺ミなど 藤左衛門」と枠線一重「天下一御壺塩師 堺見など伊織」の二種

第496図 17世紀後葉のかわらけ



類がある。前者は承応三年(1654)から使用され、後者は延宝七年(1679)から使用された刻印である。刻印の年代は年代推定の手掛かりのひとつとなっている。

在地系のもは、焙烙とかわらけが出土している。焙烙はすべて瓦質平底の内耳焙烙であり、刻印を有するものなどはなかった。

かわらけに関しては、灯明皿としての使用痕の有無を問わず土師質皿をかわらけとして数えた。

かわらけは、底部・体部ともに厚手であり、内弯気味の直立口縁を持ち、底径は口径に比してやや大きめのものが多い。規格はほぼ一致しているが、成形・整形にはいくつかの違いがあり、胎土も様々である。

本遺跡で出土したかわらけは、17世紀後葉のものとしては、江戸や江戸近郊出土のものとは異なるところがあり、一節設けて取り上げてみる。

かわらけについて

当遺跡で出土したかわらけは、共存関係から17世紀後葉から18世紀初頭に位置づけられる。

そこで時期が近く、比較するのに適当な条件を持つ遺跡を元荒川・荒川・中山道という鴻巣周辺を通る河川・街道沿線を中心に取り上げてみた。これは、当時の商品流通・技術伝播を考える上で比較し易いと考えたためである。しかし、これらの地域では、近世遺跡の調査が不十分であり、時期や遺跡の性格を考慮して選んだこともあって、比較する遺跡が少なくなってしまうことを断っておく。

第496図を見ると新屋敷遺跡のかわらけは川越や大井町、或いは江戸の遺跡から出土したものと成形上の特徴を異にしていることがわかる。江戸や埼玉県南部のかわらけには器壁が薄く、外反気味の口縁を持つものが多く見られる。特に埼玉県南部の各遺跡出土のかわらけは、独自の系譜をたどりながらも江戸在地系のかわらけの影響を少なからず受けて変遷していると

思われる。これらの要因には、流通のおよぶ範囲、もしくは生産者・工人の交流、技術の伝播が考えられる。

逆に埼玉県北部地域出土のものとは比較的新屋敷遺跡出土のものとの類似性が見受けられる。このような形態のかわらけは、江戸市中では17世紀前葉までは見受けられる古いタイプのようなものである。つまり、埼玉県北部地域では、江戸周辺地域で17世紀中葉に訪れると考えられる成形・整形上の技術転換の影響を受けることなく独自の系譜で変遷してきていると推察される。

埼玉県北部においてこのような状況が見られるということは、肥前や瀬戸美濃産などの陶磁器が江戸と遜色なく流通しているのとは比べ、中世以来の在地色の強いかわらけは継続して使用されていたことを意味している。これは江戸在地系のかわらけ、もしくはその製作技術の導入を必要としない、需要に応じた生産が在地において十分に成されていた結果であると考えられる。

まとめ

他の遺跡と比較しても、出土遺物の相違などから当遺跡が将軍家や有力諸大名と関わり深い場所であるとは考え難い。陶磁器類の時期が御殿廃絶後を中心としていることから、当遺跡には鴻巣御殿関連施設とは違った性格があると思われる。

歴史地理学的に考えても新屋敷という地名は、「元屋敷・古屋敷」に対しての「新屋敷」と考える方が考えやすい。したがって、新屋敷遺跡は鴻巣御殿に伴う「御鷹部屋」としての存在よりも御殿廃絶後にできた新しい役屋敷であったと想定する方が妥当であろう。

以上、新屋敷遺跡の陶磁器の組成やかわらけの特徴から新屋敷遺跡の性格を考えてみた。誤認している点もあるかと思われるが、以上のような土器組成を提示できたことは有意義なことであったと考える。今後このデータが、地域の近世史を解明する手掛かりとなれば幸いである。

参考文献

- 成瀬晃司・堀内秀樹 1990 「消費遺跡における陶磁器の基礎的操作と分析」『東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院地点』
発問考志 1997 「鷹狩りと鴻巣御殿」『埼玉自治』第557号 埼玉県自治研究会

附 篇

1. 平安時代出土遺物の胎土分析

(株) 第四紀 地質研究所 井上 巖

目 次

- 1 実験条件
- 2 実験結果の取扱
- 3 X線回折試験結果
 - 3-1 タイプ分類
 - 3-2 石英-斜長石の相関について
- 4 化学分析結果
 - 4-1 SiO_2 - Al_2O_3 の相関について
 - 4-2 Fe_2O_3 - MgO の相関について
 - 4-3 K_2O - CaO の相関について
- 5 まとめ

図表目次

- 第1図 三角ダイアグラム位置分類図
- 第2図 菱形ダイアグラム位置分類図
- 第3図 Mo-Mi-Hb三角ダイアグラム
- 第4図 Mo-Ch, Mi-Hb菱形ダイアグラム
- 第5図 Qt-Pl図
- 第6図 SiO_2 - Al_2O_3 図
- 第7図 Fe_2O_3 - MgO 図
- 第8図 K_2O - CaO 図
- 第1表 胎土性状表
- 第2表 化学分析表
- 第3表 タイプ分類一覧表

X線回折試験及び化学分析試験

1 実験条件

1-1 試料

分析に供した試料は第1表胎土性状表に示す通りである。X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥

したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°
計数時間: 0.5秒。

1-3 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線回折装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15KV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200倍、分析有効時間: 100秒、分析指定元素10元素で行った。

2 X線回折試験結果の取扱

実験結果は第1表胎土性状表に示す通りである。第1表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

電子顕微鏡によって得られたガラス量とX線回折試験で得られたムライト(Mullite)、クリストバライト(Cristobalite)等の組成上の組合せとによって焼成ランクを決定した。

2-1 組成分類

1) Mont-Mica-Hb三角ダイアグラム

第1図に示すように三角ダイアグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont, Mica, Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。

三角ダイアグラムはモンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb) のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント (%) で表示する。

モンモリロナイトはMont/Mont+Mica+Hb*100でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイアグラムに記載する。

三角ダイアグラムの内の1~4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

2) Mont-Ch, Mica-Hb菱形ダイアグラム

第2図に示すように菱形ダイアグラムを1~19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、緑泥石 (Ch)の内、a) 3成分以上含まれない、b) Mont, Chの2成分が含まれない、c) Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイアグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである。

Mont-Ch, Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch*100と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイアグラム内にある1~7はMont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第2図に示す通りで

ある。

2-2 焼成ランク

焼成ランクの区分はX線回折試験による鉱物組成と、電子顕微鏡観察によるガラス量によって行った。

ムライト (Mullite)は、磁器、陶器など高温で焼かれた状態が初めて生成する鉱物であり、クリストバライト (Cristobalite)はムライトより低い温度、ガラスはクリストバライトより更に低い温度で生成する。

これらの事実に基づき、X線回折試験結果と電子顕微鏡観察結果から、土器胎土の焼成ランクをI~Vの5段階に区分した。

a) 焼成ランクI: ムライトが多く生成し、ガラスの単位面積が広く、ガラスは発砲している。

b) 焼成ランクII: ムライトとクリストバライトが共存し、ガラスは短冊状になり、面積は狭くなる。

c) 焼成ランクIII: ガラスの中にクリストバライトが生成し、ガラスの単位面積が狭く、葉状断面をし、ガラスのつながりに欠ける。

d) 焼成ランクIV: ガラスのみが生成し、原土(素地土)の組織をかなり残している。ガラスは微小な葉状を呈する。

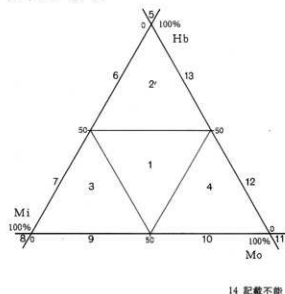
e) 焼成ランクV: 原土に近い組織を有し、ガラスは殆どできていない。

以上のI~Vの分類は原則であるが、胎土の材質、すなわち、粘土の良悪によってガラスの生成量は異なるので、電子顕微鏡によるガラス量も分類に大きな比重を占める。このため、ムライト、クリストバライトなどの組合せといくぶん異なる焼成ランクが出現する事になるが、この点については第1表の右端の備考に理由を記した。

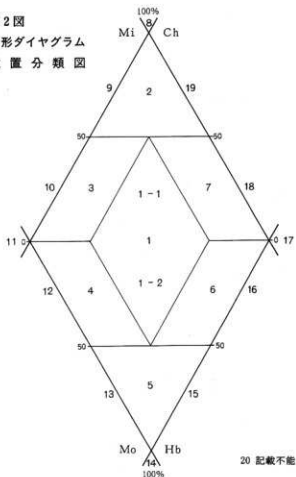
3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法(10元素全体で100%になる)で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO₂-Al₂O₃, Fe₂O₃-MgO, K₂O-CaOの各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

第1図
三角ダイヤグラム
位置分類図



第2図
菱形ダイヤグラム
位置分類図



3 分析結果

3-1 X線回折試験結果

3-1-1 タイプ分類

第1表胎土性状表に示すように分析した土器は新屋敷遺跡D区出土土器と末野、中堀、雷電下、下栗野方台の各遺跡から出土した土器である。土器は第3表タイプ分類一覧表に示すようにA～Fの6タイプに分類された。

Aタイプ：Hb 1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。

Bタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Cタイプ：Hb, Chの2成分を含みMont, Micaの2成分に欠ける。

Dタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。組成的にはCタイプと

同じであるが、検出強度が異なる為に、タイプが異なる。

Eタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Chの3成分に欠ける。

Fタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分に欠ける。高温で焼成された須恵器は鉱物が分解してガラスに変質しているため4成分に欠ける。

最も多いタイプはFタイプで、高温で焼成された須恵器で35個のうち20個が該当する。次いで、Dタイプの6個で、そのうち5個は土師器である。AとEタイプの各3個が続く。Aタイプは新屋敷遺跡D区の土器2個と末野遺跡の須恵器1個、Eタイプは下栗野方台遺跡の須恵器3個で構成される。Cタイプは中堀遺跡の須恵器、Bタイプは雷電下遺跡の須恵器1個で構成される。

3-2-2 石英(Qt)-斜長石(Pl)の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を製作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るといったことは個々の集団が持つ土器製作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各区地の砂は各々固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第5図Qt-Pl図に示すようにI~VIIの7グループに分類された。

Iグループ：雷電下遺跡の土器が集中する。

IIグループ：新屋敷遺跡D区の土器が集中する。

IIIグループ：中堀遺跡の須恵器が集中し、末野遺跡の須恵器と共存する。

IVグループ：新屋敷遺跡D区の土器が集中し、南比企系の土器、末野遺跡、下栗野方台遺跡の須恵器が混在する。

Vグループ：下栗野方台遺跡の土器が集中する。

VIグループ：新屋敷遺跡D区の南比企系の土器が集中し、新屋敷遺跡D区、末野遺跡、下栗野方台遺跡の各須恵器が混在する。

VIIグループ：新屋敷遺跡D区の土器が集中し、中堀遺跡と下栗野方台遺跡の須恵器が混在する。

新屋敷遺跡D区の須恵器は全体に分散傾向にあるがIIとIVに各3個が集中する。これとは対照的に南比企系の土器はVIグループに、土師器はVIIグループに集中する。雷電下遺跡の須恵器はIグループに集中し、各須恵器と土師器は独自のグループを形成し、明瞭に分れる。

4 化学分析結果

第2表化学分析表に示すように、新屋敷遺跡D区、

末野遺跡、中堀遺跡、雷電下遺跡、下栗野方台遺跡の各土器の化学分析値が示してある。

分析結果に基づいて第6図SiO₂-Al₂O₃図、第7図Fe₂O₃-MgO図、第8図K₂O-CaO図を作成した。

4-1 SiO₂-Al₂O₃の相関について

第6図SiO₂-Al₂O₃図に示すようにI~VIのグループに分類された。Iグループには下栗野方台遺跡の須恵器が集中し、新屋敷遺跡D区、末野遺跡、中堀遺跡の須恵器が混在する。IIグループには雷電下遺跡の須恵器が集中し、新屋敷遺跡D区の土師器と末野遺跡の須恵器が混在する。IIIグループには新屋敷遺跡D区の土師器が集中し、新屋敷遺跡D区、末野遺跡、中堀遺跡の須恵器が混在する。IVグループには新屋敷遺跡D区の須恵器が集中する。Vグループには新屋敷遺跡D区の土師器が集中し、中堀遺跡の須恵器が混在する。VIグループには新屋敷遺跡D区の須恵器が集中する。この結果はQt-Plの分類と同じ傾向を示す。

4-2 Fe₂O₃-MgOの相関について

第7図Fe₂O₃-MgO図に示すように、I~VIIの7グループを分類された。

Iグループには新屋敷遺跡D区の須恵器が集中する。IIグループには新屋敷遺跡D区の南比企系の土器が集中する。IIIグループには中堀遺跡の須恵器が集中する。IVグループには下栗野方台遺跡の須恵器が集中する。Vグループには新屋敷遺跡D区の土師器が集中し、新屋敷遺跡D区、末野遺跡、中堀遺跡の須恵器が混在する。VIグループには雷電下遺跡の須恵器が集中する。VIIグループには新屋敷遺跡D区の土師器と末野遺跡、下栗野方台遺跡の須恵器が混在する。

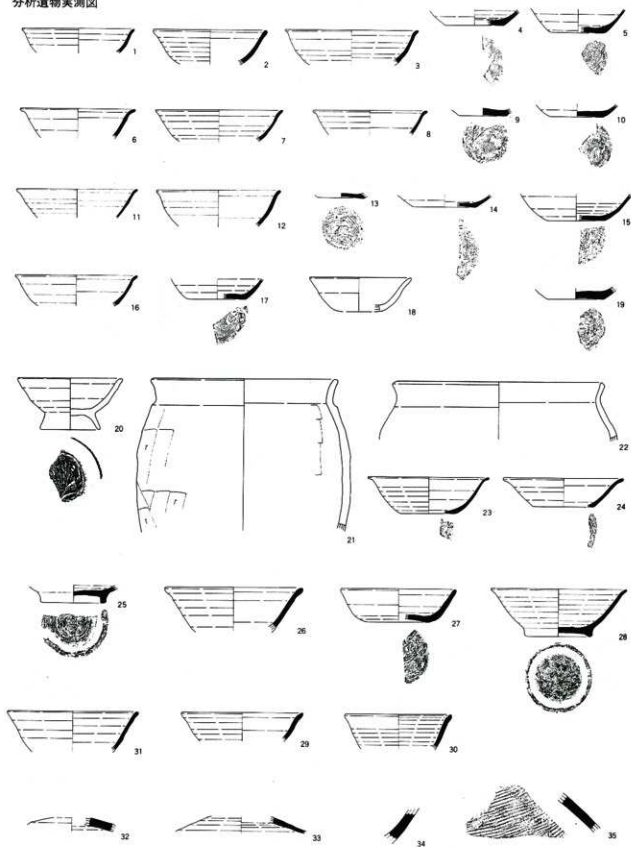
各遺跡の土器は明瞭に異なるグループを形成する。

4-3 K₂O-CaOの相関について

第8図K₂O-CaO図に示すように、I~VIのグループに分類された。

Iグループには新屋敷遺跡D区の須恵器と南比企系の土器が集中し、末野遺跡の須恵器が共存する。IIグループには雷電下遺跡の須恵器が集中し、新屋敷遺跡D区の須恵器が混在する。IIIグループには新屋敷遺跡

分析遺物実測図



0 10cm
1/4

分析遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	遺跡名	生産地
1	須恵器環	(12.0)			CKL	A	灰色	10	新屋敷遺跡D区	南比企産
2	須恵器環	(12.2)			CKL	A	灰色	10	新屋敷遺跡D区	南比企産
3	須恵器高台付埴	(14.2)			BCKL	A	オリーブ灰色	20	新屋敷遺跡D区	南比企産
4	須恵器環			(6.4)	CKL	A	灰白色	30	新屋敷遺跡D区	南比企産
5	須恵器環			(5.8)	BCKL	A	灰色	30	新屋敷遺跡D区	南比企産
6	須恵器環	(12.2)			GK	A	灰白色	10	新屋敷遺跡D区	
7	須恵器環	(13.6)			CKL	A	灰色	10	新屋敷遺跡D区	
8	須恵器環	(12.2)			BKL	A	灰白色	10	新屋敷遺跡D区	南比企産
9	須恵器環			(5.0)	GKL	A	灰色	80	新屋敷遺跡D区	
10	須恵器環			(5.6)	GKL	A	淡黄色	30	新屋敷遺跡D区	
11	須恵器環	(12.8)			BGKL	A	灰色	10	新屋敷遺跡D区	
12	須恵器環	(13.2)			BKL	A	青灰色	10	新屋敷遺跡D区	
13	須恵器環			4.9	BGKL	A	灰色	100	新屋敷遺跡D区	
14	須恵器環			(6.6)	BGKL	A	灰色	25	新屋敷遺跡D区	
15	須恵器環				KL	A	灰白色	30	新屋敷遺跡D区	
16	須恵器環	(13.0)			BKL	A	灰色	10	新屋敷遺跡D区	南比企産
17	須恵器環			(6.2)	CKL	A	にぶい褐色	30	新屋敷遺跡D区	南比企産
18	土師器埴				HKL	A	橙色	10	新屋敷遺跡D区	新治産
19	須恵器高台付埴				HKL	A	橙色	10	新屋敷遺跡D区	新治産
20	土師器高台付埴			(6.0)	HKL	A	橙色	30	新屋敷遺跡D区	新治産
21	土師器甕				HKL	A	橙色	10	新屋敷遺跡D区	
22	土師器甕				HKL	A	明赤褐色	10	新屋敷遺跡D区	
23	須恵器環	(13.0)	4.8	(6.0)	GKL	A	灰オリーブ色	10	未野遺跡	未野産
24	須恵器高台付埴	(13.0)	3.0	(6.6)	BDKL	A	灰色	10	未野遺跡	未野産
25	須恵器高台付埴			(7.0)	BDKL	A	灰色	60	未野遺跡	未野産
26	須恵器高台付埴	(15.8)			BGKL	C	灰白色	10	中塚遺跡	
27	須恵器環	(12.3)	3.5	(6.6)	BDGKL	A	灰色	40	中塚遺跡	
28	須恵器高台付埴	(14.4)	5.0	(7.2)	BDGKL	A	灰白色	50	中塚遺跡	
29	須恵器高台付埴	(13.0)			FKL	A	橙色	10	雷電下遺跡	児玉産
30	須恵器高台付埴	(11.4)			BKL	A	灰色	10	雷電下遺跡	児玉産
31	須恵器環	(15.4)			HKL	A	灰白色	10	下栗野方台遺跡	新治産
32	須恵器甕				HKL	A	灰白色	10	下栗野方台遺跡	新治産
33	須恵器甕				BKL	A	灰色	10	下栗野方台遺跡	新治産
34	須恵器鉢				HKL	A	灰色	10	下栗野方台遺跡	新治産
35	須恵器甕				BKL	A	灰赤色	10	下栗野方台遺跡	新治産

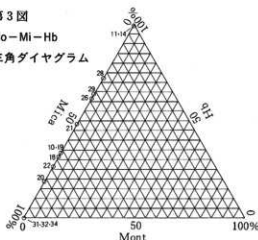
第2表 化学分析表

試料番号	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	NiO	Total	器種	遺跡名
新屋敷D-1	0.71	0.47	19.73	65.94	1.08	0.69	0.78	0.41	10.20	0.00	100.01	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-2	1.40	0.91	21.91	64.20	1.10	0.51	1.43	0.40	7.92	0.21	99.99	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-3	0.58	0.50	12.80	77.54	1.42	0.19	0.75	0.30	5.92	0.00	100.00	須恵器高台付埴	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-4	0.91	0.98	21.29	65.63	2.08	0.54	0.96	0.14	7.48	0.00	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-5	0.78	1.07	20.19	67.85	1.60	0.50	0.91	0.00	6.71	0.39	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-6	0.00	0.72	14.78	73.79	4.42	0.28	0.59	0.02	5.38	0.02	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-7	0.16	0.83	26.27	63.35	1.49	0.41	1.43	0.21	5.84	0.00	99.99	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-8	0.43	1.09	21.49	67.76	1.62	0.30	1.15	0.07	6.06	0.03	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-9	0.00	0.61	14.15	72.49	5.50	0.29	0.66	0.13	5.33	0.49	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-10	0.72	0.57	18.46	72.66	1.05	0.49	0.72	0.00	5.32	0.02	100.01	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-11	1.74	1.21	23.89	60.45	1.51	0.64	1.21	0.16	9.19	0.00	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-12	0.04	1.23	14.14	73.19	4.10	0.36	0.61	0.36	5.97	0.00	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-13	0.88	0.89	23.81	58.43	2.00	1.03	1.84	0.35	10.52	0.25	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-14	0.59	1.76	24.30	55.55	1.93	0.85	1.77	0.00	13.00	0.25	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-15	0.11	1.35	25.59	57.80	2.45	0.72	1.76	0.08	9.75	0.00	100.01	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-16	0.30	0.90	27.12	62.39	1.54	0.40	1.27	0.00	5.87	0.21	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-17	1.31	0.83	19.45	67.71	1.89	0.61	0.93	0.00	7.25	0.02	100.00	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-18	0.86	1.31	22.59	60.19	2.98	0.82	1.14	0.28	9.68	0.15	100.00	土師器埴	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-19	0.71	0.91	22.52	59.30	2.84	0.91	2.07	0.00	11.30	0.00	99.99	土師器高台付埴	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-20	0.91	0.91	23.89	61.60	2.59	0.50	0.99	0.34	8.27	0.00	100.00	土師器高台付埴	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-21	0.44	1.15	22.00	60.90	2.17	0.78	2.28	0.22	10.05	0.00	99.99	土師器甕	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-22	0.80	1.24	23.03	56.17	1.09	1.18	0.76	0.00	15.48	0.24	99.99	土師器甕	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-23	0.88	1.43	26.48	55.56	1.44	0.50	1.59	0.28	11.84	0.00	100.00	須恵器甕	未野遺跡

試料番号	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	NiO	Total	器種	遺跡名
新屋敷D-24	2.22	1.18	22.44	60.05	1.59	0.61	1.26	0.35	10.13	0.18	100.01	須恵器高台付塊	末野遺跡
新屋敷D-25	0.81	0.79	22.82	55.90	1.23	0.62	1.28	0.00	16.55	0.00	100.00	須恵器高台付塊	末野遺跡
新屋敷D-26	0.50	2.55	20.56	63.25	2.76	1.36	1.15	0.00	7.86	0.00	99.99	須恵器高台付塊	中堀遺跡
新屋敷D-27	0.64	1.31	24.85	56.56	2.87	1.16	1.57	0.00	10.66	0.38	100.00	須恵器環	中堀遺跡
新屋敷D-28	0.88	2.43	22.03	60.76	2.50	1.43	1.56	0.12	8.03	0.27	100.01	須恵器高台付塊	中堀遺跡
新屋敷D-29	1.23	2.17	23.78	52.49	2.16	0.97	1.51	0.00	15.40	0.28	99.99	須恵器高台付塊	雷電下遺跡
新屋敷D-30	0.30	2.89	22.04	55.82	2.37	1.18	1.58	0.05	12.77	0.00	100.00	須恵器高台付塊	雷電下遺跡
新屋敷D-31	0.77	0.56	26.54	59.88	2.95	0.66	1.19	0.07	7.26	0.12	100.00	須恵器環	下栗野方台遺跡
新屋敷D-32	0.40	0.77	26.55	57.52	2.61	0.49	1.54	0.04	9.99	0.09	100.00	須恵器環	下栗野方台遺跡
新屋敷D-33	1.18	0.97	24.19	54.53	2.04	0.52	1.53	0.00	14.88	0.14	99.98	須恵器蓋	下栗野方台遺跡
新屋敷D-34	0.71	0.86	29.10	56.68	2.17	0.51	1.80	0.00	8.18	0.00	100.01	須恵器鉢	下栗野方台遺跡
新屋敷D-35	1.60	0.69	24.96	57.16	3.62	0.85	1.16	0.00	9.63	0.34	100.01	須恵器甕	下栗野方台遺跡
											0.00		

第3図

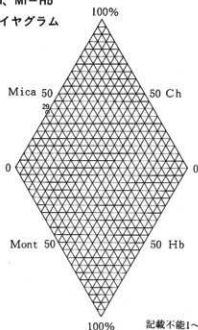
Mo-Mi-Hb
三角ダイヤグラム



記載不能1~9. 12~13. 15~17
24~25. 27. 30. 33. 35

第4図

Mo-Ch, Mi-Hb
菱形ダイヤグラム

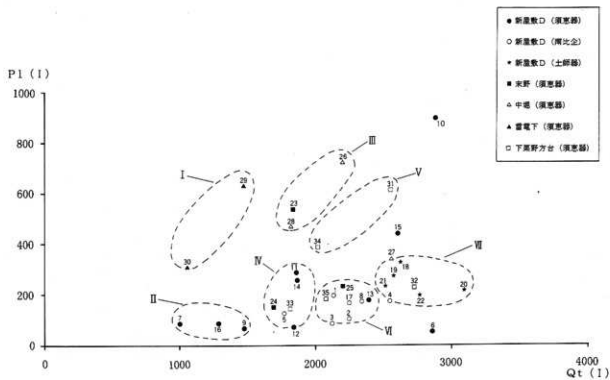


記載不能1~28. 30~35

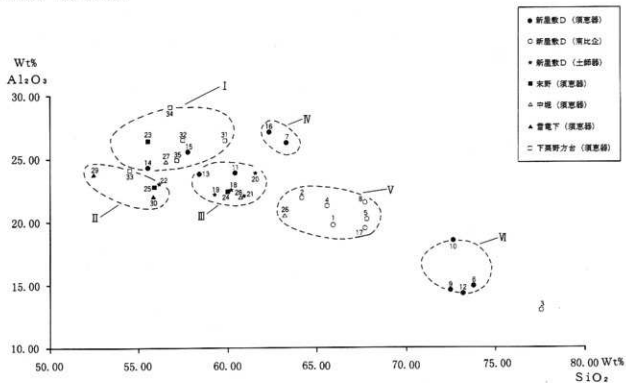
第3表 タイプ分類一覧表

試料 No	タイプ分類	器種	遺跡名
新屋敷D-11	A	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-14	A	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-23	A	須恵器甕	末野遺跡
新屋敷D-29	B	須恵器高台付塊	雷電下遺跡
新屋敷D-26	C	須恵器高台付塊	中堀遺跡
新屋敷D-28	C	須恵器高台付塊	中堀遺跡
新屋敷D-10	D	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-18	D	土師器碗	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-19	D	土師器高台付塊	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-20	D	土師器高台付塊	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-21	D	土師器甕	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-22	D	土師器甕	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-31	E	須恵器環	下栗野方台遺跡
新屋敷D-32	E	須恵器蓋	下栗野方台遺跡
新屋敷D-34	E	須恵器鉢	下栗野方台遺跡
新屋敷D-1	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-2	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-3	F	須恵器高台付塊	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-4	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-5	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-6	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-7	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-8	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-9	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-12	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-13	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-15	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-16	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-17	F	須恵器環	新屋敷遺跡D区
新屋敷D-24	F	須恵器高台付塊	末野遺跡
新屋敷D-25	F	須恵器高台付塊	末野遺跡
新屋敷D-27	F	須恵器環	中堀遺跡
新屋敷D-30	F	須恵器高台付塊	雷電下遺跡
新屋敷D-33	F	須恵器蓋	下栗野方台遺跡
新屋敷D-35	F	須恵器甕	下栗野方台遺跡

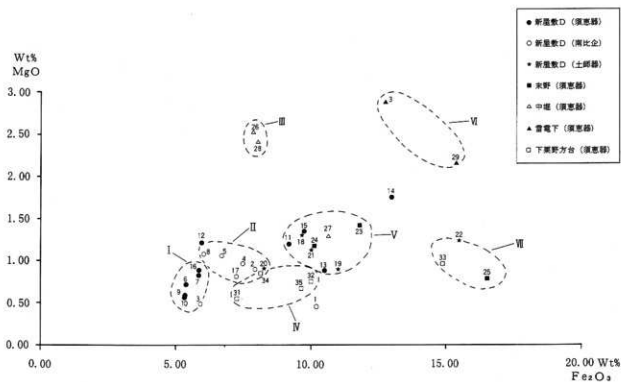
第5图 Qt-Pt图



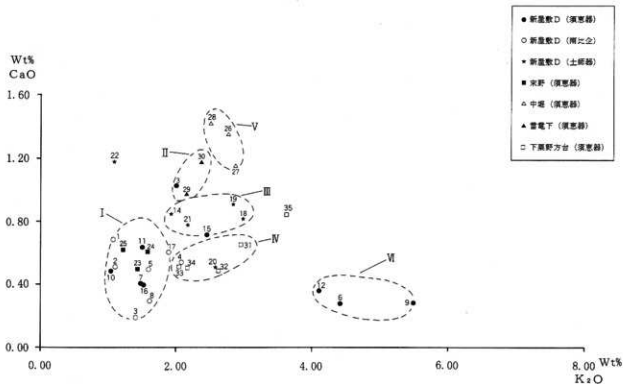
第6图 SiO₂-Al₂O₃图



第7图 Fe₂O₃-MgO图



第8图 K₂O-CaO图



2. 近世漆器の塗膜分析

漆器文化財科学研究所 四柳嘉章

1. 分析の方法

漆器の製作技法や品質は考古学や美術史で一般的な表面観察では加飾部分や外形でしか判断できず、塗膜の下に隠された髹漆や下地材料などの情報は塗膜分析によって引き出される。この方法は漆器の内外面数箇所から数mmの塗膜片を採取し、ポリエステル系樹脂に包埋後その断面を研磨した上、これをプレパラートに接着してさらに研磨する(＃100～3000)。そして金属顕微鏡、偏光顕微鏡、実体顕微鏡などで観察し、サンプルである手板試料と比較検討しながら髹漆や下地材料の同定を行うものである¹⁾。塗装液の同定には代表的なものを赤外線(IR)吸収スペクトル法、赤色顔料の同定には蛍光X線分析法を併用した。

本稿で用いる用語については基本的には塗工用語に従うが、意味が曖昧で誤解をまねくものについては、以下のように規定して使用する。

①赤色漆 赤色の顔料である朱やベンガラが未同定の場合には「赤色漆(未同定)」と最初に断って使用し、同定済みは「赤色(朱)漆」「朱漆」「ベンガラ漆」と表記する。よく使われる「赤漆(あかうるし)」は「赤漆(せきしつ)」との混同をさけるために用いない。内外面とも赤色漆の場合は「総赤色(未同定)漆」、同定できた場合は「総赤色(朱)漆」、あるいは慣例による「総(惣)朱」「皆朱」「朱漆器」を用いることもある。

②黒色漆 黒色の顔料である炭素粒子や鉄系化合物粒子などを含むものを「黒色漆」、まぎらわしいか黒色顔料を含まないものを「黒色系漆」として区別する。なぜならば「黒色系漆」においては、黒色顔料を含まずとも漆自体の表層が茶黒色に変質すること、さらに下地色を反射して肉眼では黒色に見えるからである。近年の筆者の調査では古代以来こうした方法が一般的と考えられるので、技術や材料科学の上からも両者の区別が必要である。未同定の場合は、はじめに「黒色漆(未同定)」とことわる。内外面とも黒色漆の場合は

「総黒色漆」、同じく黒色系漆は「総黒色系漆」(慣例による「総(惣)黒」は両者を含んだものである)、内面赤色外面黒色漆は「内赤外黒色漆」、同じく外面黒色漆は「内赤外黒色系漆」とする。赤色顔料が同定されている場合は「内朱外黒色漆」あるいは「赤(ベンガラ)外黒色漆」、「内朱」でもかまわない。

③下地の分類 一般の粗い鉱物粒子を用いたものは「地の粉漆下地」、珪藻土使用は「珪藻土漆下地」、より細かい砥の粉類似は「錆漆下地」、膠使用は「地の粉(錆)膠下地」、炭粉は漆を用いたものは「炭粉漆下地」、柿渋を用いたものは「炭粉渋下地」などとする。

II. 分析結果

塗膜分析報告(塗装工程)の記述は、木胎(木地)の上に施された順に番号(①～)を付けて説明する(木胎への木固め工程の記述は省略)。分析番号は埋蔵文化財事業団で付けられた漆器の資料番号と一致する。層厚は1資料につき内外面各4点を分析したものの平均値であり、必ずしも図版のスケールとは一致しない。本文中、最後の工程である上塗漆の項で「表層変質」とあるのは、時に誤って「黒着色層」と報告されるが、黒色顔料が含まれているわけではなく、空気と常に接触する上塗漆の表層には多糖-糖タンパク-ウルシオール成分の層があり、酸化して茶褐色ないし茶黒色に変質している。すなわちこの表層が酸化劣化防止層となって強い塗膜が形成される。

◇分析No1 (図版1-1・2、D区SE75出土)

碗(内赤外黒色系)

器彩・表面観察

半球状にゆるやかに立ち上がる厚手の内赤外黒色系碗。外面は暗茶色を呈し赤色漆による丸に葉の家紋が加飾されている。葉は柏か楓のようにも思えるが、葉脈には引掻(針描)技法が用いられている。内面の赤色は臙脂色に近い赤で、マンセル値は4R 4/11である。ヨコ木(柎目)取り。

D区SE75から2点の漆器が出土しているのに、念のために体部をNo.1-1、みこみ・高台部をNo.1-2として分析をおこなった。

塗膜分析

No.1-1内面 ①炭粉漆下地層。層厚は20~100 μm と幅がある。表層の分離は5 μm 前後。炭粉粒子は針葉樹の木口組織をとどめる粗いもので、大きなものでは61 \times 10 μm の針状も含まれている。②赤色(ベンガラ)漆層。層厚61 μm 前後。ベンガラ粒子は1 μm 以下のものが大半であるが、長径2~7 μm の楕円形粒子を含むやや粗い破碎工程である。

No.1-1外面(図版1-1) ①炭粉漆下地層。層厚や炭粉粒子はほぼ内面に同じ。②漆層。層厚は14~69 μm 。表層5 μm 前後が変質。透漆の透明度は良好。

No.1-2内面(図版1-1) ①炭粉漆下地層。層厚は40~100 μm 。表層の分離は5 μm 前後。炭粉粒子はNo.1-1に同じ。②赤色(ベンガラ)漆層。層厚は54 μm 前後。ベンガラ粒子は1 μm 以下のものが大半であるが、大きなものでは5 \times 12 μm の楕円形粒子を含むやや粗いもの。

外面は剝離しており分析はできなかったが、No.1-1と2は同一個体と確認できる。

◇分析No.2(図版1-3・4、D区SE67出土)

椀(総赤色)

器形・表面観察

口縁部と高台を欠くが、体部は半球状にゆるやかに立ち上がる総赤色椀。赤色の色調はNo.1と同じく臙脂色に近い赤で、マンセル値は4R 4/11。ヨコ木(柾目)取り。

塗膜分析

内面(図版1-3) ①炭粉漆下地層。層厚は75 μm 前後。表層の分離は7 μm 前後。炭粉粒子は針葉樹の木口組織をとどめる粗いもので、大きなものでは10 \times 54 μm の針状も含まれ、No.1と近似している。②赤色(ベンガラ)漆層。層厚49 μm 前後。ベンガラ粒子は1 μm 以下のものが大半であるが、4 \times 12 μm の楕円形粒子や長径5 μm 前後の楕円形粒子を含むやや粗い破碎工

程。

外面(図版1-4) ①炭粉漆下地層。平均層厚は122 μm 前後。表層の分離は7 μm 前後。炭粉粒子の特徴は内面と同じで、大きなものでは12 \times 72 μm の針状が含まれている。

②赤色(ベンガラ)漆層。層厚49 μm 前後。ベンガラ粒子は内面に同じ。

◇分析No.3(図版1-5~9、D区SE64出土)

D区SE64からは明らかに異なる2点の漆器が出土しているのにNo.1-1とNo.1-2に分けて報告する。

No.3-1 椀(総赤色)

器形・表面観察

高台部分で畳付を欠くが、内面の削りが深い角底の総赤色椀である。高台裏まで赤色漆がしっかりと施されており、黒色漆(未分析)による「今右衛門カ」の在銘を有する。外面の塗膜剝離が著しく、全体に火熱を受けているようである。赤色の色調は臙脂色に近い赤で、マンセル値は4R 4/11。ヨコ木(柾目)取り。

塗膜分析

内面(図版1-6) ①炭粉漆下地層。総厚は45 μm 以上。表層の分離は5 μm 前後。炭粉粒子は2 \times 8 μm の針状粒子や長径5 μm 前後の楕円形粒子などが多い。

②赤色(ベンガラ)漆層。層厚37 μm 前後。ベンガラ粒子は1 μm 以下のものが大半であるが、長径4~12 μm の楕円形粒子を含むやや粗いものである。

外面(図版1-5) ①炭粉漆下地層。層厚は85 μm 以上。表層の分離は5 μm 前後。炭粉粒子は内面に同じ。②赤色(ベンガラ)漆層。層厚は49 μm 前後。ベンガラ粒子の粒度は内面に同じ。

No.3-2 椀(内赤外黒色系)

器形・表面観察

高台と口縁部を欠くが、張った腰から強く立ち上がる内赤外黒色系椀。外面には細線で描かれた赤色漆絵がみられるが、意匠は不明。筆法は上手である。内面の赤色漆の色調は臙脂色に近い赤で、マンセル値は4R 4/11。ヨコ木(柾目)取り。

塗膜分析

内面(図版1-6) ①炭粉漆下地層。層厚は途中から剥離しているため不詳。表層の分離は3 μ m前後。炭粉粒子は7 \times 17 μ mの長方形から、径1 \sim 2 \times 14 μ m程度の針状粒子が多い。②赤色(ベンガラ)漆層。層厚は厚く110 μ m前後。ベンガラ粒子は長径12 \sim 22 μ mの楕円形粒子を含むやや粗いものである。

外面(図版1-5) ①炭粉漆下地層。層厚は49 \sim 122 μ m。7 \times 129 μ mの大きな棒状粒子を含み、部分的に針葉樹の木口組織をとどめる粗いもの。②漆層。層厚110 μ m前後。表層3 μ m前後が茶黒色に変質している。

Ⅲ. 小結

鴻巣市新屋敷遺跡の近世遺構は、17世紀後半を中心として18世紀後半まで営まれ、近くに將軍家が鷹狩の際に宿泊地とした鴻巣御殿推定地があることから、鳥見役天野家に係わる屋敷跡とも推測されている²⁾。

本稿では陶磁器やその他の生活用具とともに井戸内部から出土した漆器の塗膜分析結果を報告してきたが、その特徴を要約し、若干の所見を付してまとめにかえたい。

分析資料は5点、試料としては20点のプレパラートを作成し、総赤色碗2点、内赤外黒色茶碗2点であることを確定した。

下地としてはすべて炭粉漆下地(柿漆に炭粉粒子を混ぜたもの)が用いられ、塗装工程は下地の上に漆1層という一般的な髹漆で、上塗りの赤色顔料もベンガラであった。しかしNa3-1碗のように高台裏まで丁寧に塗りが施されているものは、見えない部分から下地であっても、見かけは上質品として購入されたかもしれない。

次に下地の炭粉粒子と赤色顔料の粒度を計測したところ、4点ともやや粗く共通する破砕工程が確認されたので、同一産地の製品と考えて大過ない近似性があると判断した。器形では厚手のNa1とNa3-2に東北タイプの特徴がみられるようである(後述)。樹種は詳細な同定はおこなっていないが、大半がブナのように

あり、髹漆と木地の対応関係が看取される。木取りはすべてヨコ木(柎目)取りである。

なお、こうした井戸に投げ捨てられたものが普及型漆器であっても、漆下地に何層もの漆が塗り重ねられた上質漆器は、しかるべきところに保管されていたために腐食したか、あるいは移転に伴って持ち去られた可能性もあるので、出土漆器をもって当遺跡の漆家財すべてを語ることはできない。

さて、近世では漆器の普及も飛躍的に増大するが、都市や農山村の周辺での小規模商圏の漆器生産の外に、大名による領国経営下の広域的漆器生産地形成が活発となり流通も複雑となる。当遺跡の4点のデータだけで産地を特定することは、産地そのものの分析情報が集積されていない現状では、はなはだ困難なことであるが、文献資料の上から近世の漆器生産地を概観し、可能性を考えてみることにしたい。

1638(寛永15)年の『毛吹草』(松永重頼)掲載の漆器産地としては山城(塗師細工、藁塗師、浅黄碗・盆・折敷など)、大和(塗桶、塗鉢、山折敷)、和泉(中浜塗木履、常器碗)、近江(朽木塗物鉢・玉等、五器)、陸奥(薄碗・同盆)、石見(浜田折敷)、播磨(清水折敷)、紀伊(黒江浪地碗、根来碗、折敷)、筑前(折敷)、肥前(唐蒔絵)、日向(五器)があげられている。1712(正徳2)年の『和漢三才図会』では、陸奥(碗鉢)、下野(碗折敷日光盆・木鉢)、近江(碗鉢、塗盆鉢)、山城(塗物)、大和(塗桶漆良、塗挽はち語欵)、紀伊(碗名草江)の産地が見える。また17世紀において、生産を開始した所は、弘前(津軽塗)、藤峰(白子春慶)、能代(能代春慶)、川連、荒沢(淨法寺碗)、鳴子、仙台、山形、米沢、鶴岡、村上、日光、江戸、平沢、名古屋、高山(飛騨春慶)、彦根、小浜(若狭塗)、金沢、高岡、竹田(竹田碗)、松江、長崎、富山、山中などの25ヶ所および(高松、長岡もこのころか)、中世末までにすでに生産を開始していた会津若松(喜多方を含む)、木曾福島(木曾春慶)、駿府、輪島、河和田(越前漆器)、黒江(紀州漆器)などが産地として大きくなり始めたのもほぼこの時期といわれている³⁾。

こうした乱立する各産地の製品同定は、輪島塗のように珪藻土漆下地⁴⁾であれば識別が容易であるが、その他においては緻密な下地分析(特に地の粉下地)と器形や意匠、材料など加飾技法の研究を行い、加賀藩でいえば「百工比照」のような実物との比較検討が大切となる⁵⁾。しかし東国では情報量が極めて少なく困難を伴うが、あえて産地をあげるとすれば、会津塗であろう。

会津漆器は1647(正保6)年ごろには領外に確実に出しており、1685(貞享2)年ごろには領外市場が不可欠なものになっている。会津漆器の領外市場は領外商人の会津への出向きによる仕入れと、会津商人による他領への売込みがあり、例えば検断薬田氏支配下の町宿止宿者に限ってみても、1689(元禄2)年の岩城平の伝右衛門の「塗荷物調儀」を所見として、宝永末年までに、三春、江戸、紀州、佐渡、勢州、白川、棚倉、最上、野州、越後、米沢、庄内、武州、福島、秋田、上総などから荷物調儀にきているのである。江戸へはいち早く1723(享保8)年には江戸塗仲間を結成し、流通独占を図っている⁶⁾。こうしたことからみて、当地への流通は充分考えられることであろう。

なお、会津塗とならんで江戸周辺に大きな商圏をもったものに、黒江漆器がある⁷⁾。江戸では黒江江戸横塗物問屋、駿府塗物江戸仲間を結成して、広域的な進出を図り、19世紀には国内生産高の20%をうまわるほど大量の漆器を集積し、うち10%程度を地元消費にあて、残り90%を江戸ないし西国に送り出している⁸⁾。しかし、当遺跡の盛行期である17世紀後半には江戸やその周辺に進出した痕跡はなく、当遺跡においては該当しない。

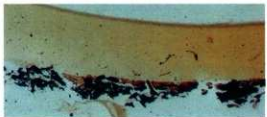
註

- 1) 四柳嘉章「漆器」『概説 中世の土器・陶磁器』真福社、1995
四柳嘉章「漆器考古学の方法と中世漆器」『考古学ジャーナル』1996、4月号
- 2) 昼間孝志「鷹狩と鴻巣御殿」『埼玉自治』1997、557号 埼玉自治研究会
- 3) 半田市太郎「近世漆器工業の研究」吉川弘文館、1970
- 4) 四柳嘉章「北陸・東北における古代・中世漆器の探検技術と商期」『石川考古学研究会々誌』第35号、1992
- 5) 四柳嘉章「金沢城石川橋(白鳥堀・沈床園)出土漆器の塗膜分析」『金沢城石川橋発掘調査報告書II』石川県立埋蔵文化財センター、1998
- 6) 半田市太郎「近世漆器工業の研究」吉川弘文館、1970
四柳嘉章「外堀跡(2号堀跡)出土漆器の科学分析」『神指城跡 国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告書』福島県教育委員会、1992
四柳嘉章「堀ノ内遺跡出土漆器及び曲物の科学分析」『堀ノ内遺跡 東北自動車道路遺跡調査報告17』福島県教育委員会、1992
- 7) 冷水清一「海南漆器史」(私家版)、1975
四柳嘉章「三島市御殿川流域遺跡群出土漆器の塗膜分析」『御殿川流域遺跡群II 平成2・3年度一級河川御殿川小規模河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』静岡県埋蔵文化財調査研究所、1994
- 8) 半田市太郎「近世漆器工業の研究」吉川弘文館、1970

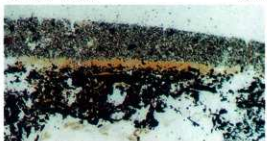
図版1 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真



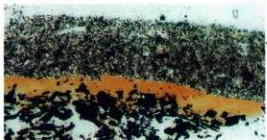
1. No. 1-2 内面 ×520



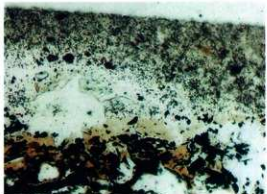
2. No. 1-1 外面 ×260



3. No. 2 内面 ×520

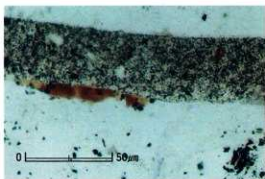


4. No. 2 外面 ×260



5. No. 3-1 外面 ×520

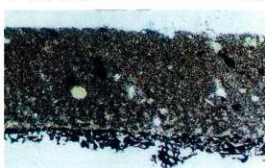
(No. 1 ~ 6、8、9 は単ニコル)



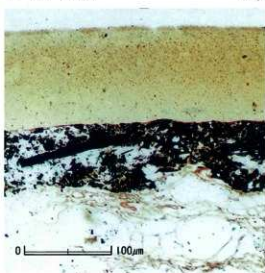
6. No. 3-1 内面 ×520



7. No. 3-2 内面 ×260



8. No. 3-2 内面 ×260



9. No. 3-2 外面 ×260

報告書抄録

ふりがな	しんやしきいせきDく							
書名	新屋敷遺跡D区							
副書名	大蔵省鴻巣宿舎建設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告 第2分冊							
巻次								
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第194集							
編著者名	昼間孝志・大谷 徹							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木台4丁目4番地1					TEL 0493-39-3955		
発行年月日	西暦 1998(平成10)年3月31日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しんやしきいせきく 新屋敷遺跡D区	さいたまけんこうすうしゆせき 埼玉県鴻巣市東 4丁目384番地 12他	11217	42	36°03'44"	139°31'14"	19940701～ 19950930	22,000	宅地建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
新屋敷遺跡D区	集落跡 古墳跡	先土器時代 縄文時代中期 古墳時代前期 古墳時代後期 平安時代 中・近世	石器集中3・礫群7 竪穴住居跡1・土壇14 竪穴住居跡1 古墳跡25 竪穴住居跡69・井戸3 掘立柱建物跡18 柵列跡13 井戸64 土壇803 溝85 不明遺構3		ナイフ形石器・尖頭器 縄文土器・石器 土師器 土師器・須恵器・埴輪・ 鈴鏡・鋤先・紡錘車 土師器・須恵器 陶磁器・かわらけ・木 製品・石製品・鉄製品		帆立貝形前方後円 墳1基を含む古墳 群の調査で、供獻 土器や埴輪が検出 された。 掘立柱建物跡、柵 列跡、井戸、溝で 構成される17世紀 後半～18世紀初め 頃の屋敷跡と思わ れる遺構が検出さ れた。	

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第194集

鴻巣市

新屋敷遺跡Ⅰ区

大蔵省鴻巣宿舎建設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告
〈第2分冊〉

平成10年3月26日 印刷

平成10年3月31日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 大里郡大里村船木台4丁目4番地1

電話 0493 (39) 3955

印刷／巧和工芸印刷株式会社